

4

4
3
3

④

M. 23. 3. 01
~ 3. 30

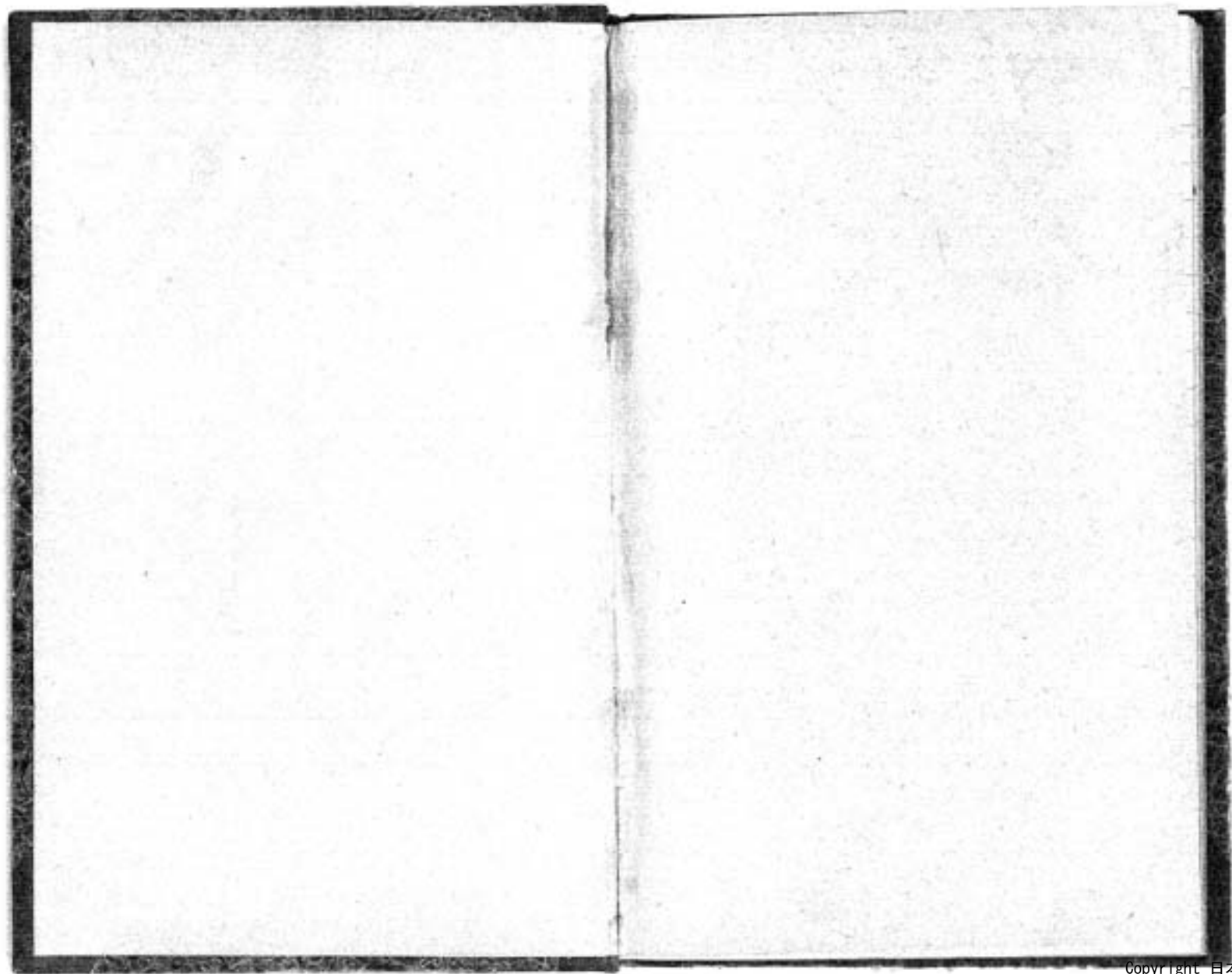
ウキよのたび

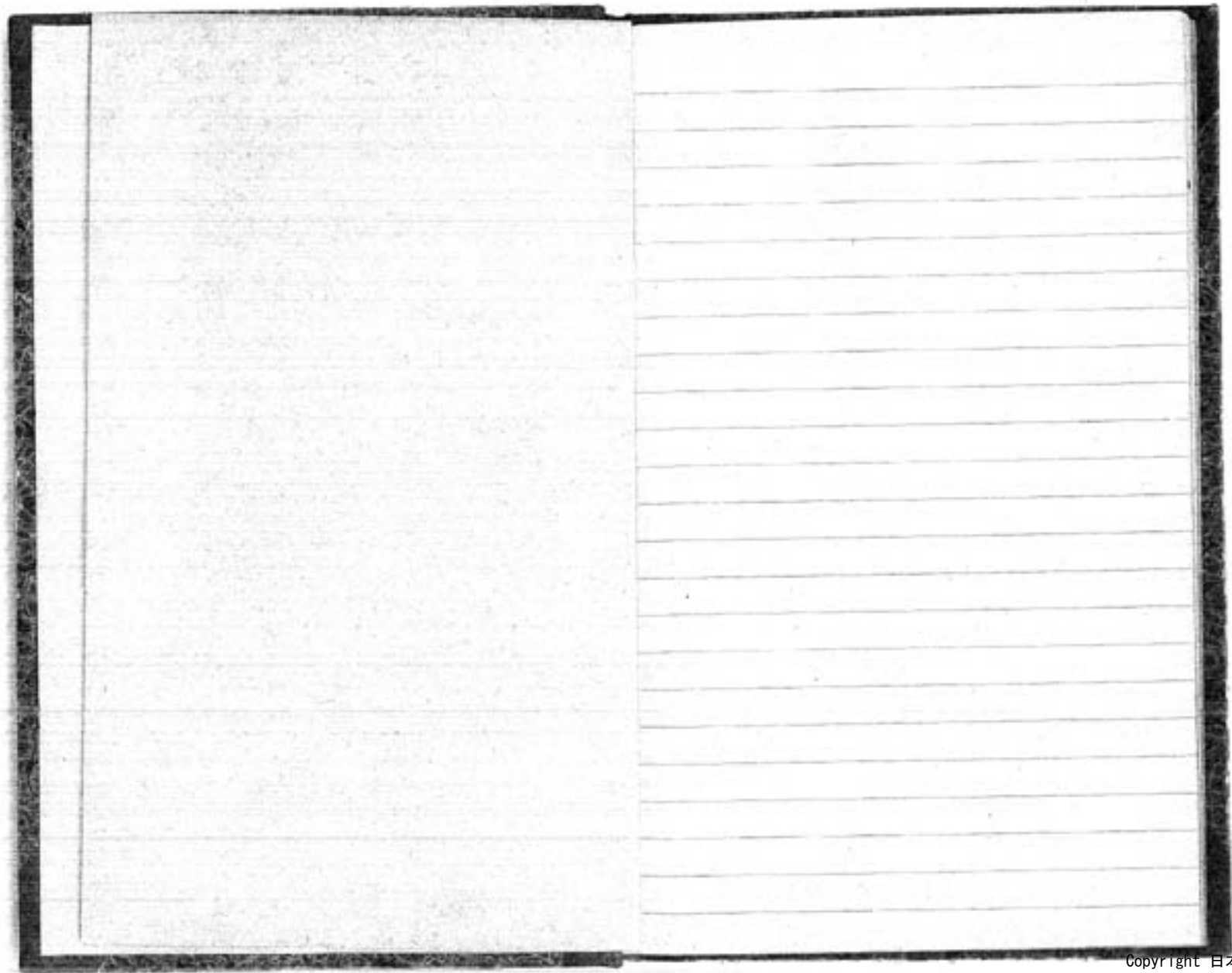
明治三十三年

自三月一日

至三月三十一日

第百





蔣世の族

序

明治二十三年三月一日 (土)

午前七時半起キ八時半至大學運動場
赴キ大學全紀念式。臨キ総長瀧谷氏ハ
場中央ナル港止ニ登リテ大學令ヲ朗読シ
トニヒ度ヤ所例ノムニテ古事竹ヲレ次
ニ原文ヲ讀ミ上ケラレガ声ノ低キガ上ニムニヤ
ムニヤト来リル故不分明極マコシ総長ハ
マゴツキ乍ラ聲ヲビテ総長從三位勲二等
瀧谷基トシゴギ付ケ天皇陛下萬歲帝國大
學萬歲ヲ唱ヘタリ學生中ヨリ総長閣下萬歲
學生諸氏萬歲ヲ唱ヘタリ終リ葉子ヲ領
テ退散セリ余ハ專授ニ行キテ休息シタルカ
真水、今泉、兩人ト出合ヒテ色々面白キヲ言
ノ末三人ニテ高ガ中學ニ行キ久シブリニテ
場ヲ見タリ終リニ物理室ニ行キテ教員
達ニトセリガ果サバズ三人余、寓ニ来リテ又
寺街上ノ院ヲ始メ正午ヲ過キヨリオケ
連テ花壇社ニ赴キレガ梅花モ始メ散
リ遊樂モ終レテ寧ル淋キ風情ナリ吏的
上野ヘ行クニテ神保町也コト来ルニ埃ニ
ナニ應シテ上野行ノ雷鼓ナリ錦町、火災
跡ナドヲ見物ニ別途真水英丈カ宅ニ立テ

ヨリテ足腹師ヲ食フ眞水ハ今高橋一勝
氏ノ孤ト後家ト共ニ同居セ一勝氏凄
ト申スハ親友社ニナラズ物ト呼バセ世間ノ
心アル者ヨリハゴロツキ者ト笑ハル石橋助
三郎號ヲ思案外史ト云フワソバク大僧ノ
妙君ニテマシマスナリ間ヲ休題四時頃ヨリ
三人又々打テ連シテ指ノ花町(十石川)ナル
今泉カ寓ニ赴キ牛肉ヲ煮テ宇宙ノ哲理ヲ
説クタルコソ頼母ケル三人共ニ唯物論者ナル
ガ余ハ妙ニモ人間ノ五官アリ然レ後萬物
アリ萬物ハ實際ニアルヲ舌ヲ萬物ハ實際
如何ノモノナルハ知レ難シ人ノ五官不完全
ナレバ人ニ目ケレバ天下ニ色ナシ人ニ耳ナ
ケレバ天下ニ声ナシ人ニ觸官ナケレバ開クナシ
只人ハ其感スルニヨリテ萬物アルヲ考フル
ニ過キズト痛セジガ兩人ハ全ク不服ニテ
冷談ニモ一ツ附シテハナク不満足ナリ
三人ハ時ト空間ト空義ヲ研究シ人智ノ
周達ノ如何ヲ痛シ其他無暗ニ高尚幽微
ナル哲學ヲ論究シ十時迄キ轉テ分ケ余ハ
月ヲ踏テ十時半家ニリヨリ直ニ寢ニ就キ
判決ニ十五点ナリ

二日(日) 記

午九時起キヤ、暫ハホクニテ時ヲ
費シ天運循環論ヲ草シ又地回ヲ研
究ナドニテ時ヲ匿ル内十時半トナリ山田
守ヲトテ男入り来リ忽チ離テ去トナル
一時見ハ山田ト共ニ外出ス余ハ勉強
セル男ヒカ録リ女子天氣ハ心モソバコ
家ヲ出テ聖省先生ヲ訪ヒラシバシインドオル
ガンヲカキ鳴ラシ白酒三杯、馳走ニ預ル
リ三時ヨリ西入上野ヘト好ムシ管楽
ヲ下ツテ根岸、同野尾ニ入リシコトナリ
食ヒテ満腹シテリ吏ロリブラクト上野ヘ来リ
余ハ体重ヲ測ルニ風袋ヲカヘテ僅カニ
三貫四百目ニナリレニハ陸胆セリ吏ロ
切通シニテ買物ヲ測ヘ家ニケリテ休
息ノ後手早ニ日記ヲ認メニ雄カ業漢
ニ從フビールヲ化スルヲ安ク次郎来リ
カ直クニリレリ余ハ困エヘノ手紙ヲ認メ
終リ學課ニトツカフテ一心不亂模見
ス蘇知加、十一時半マテ勉強シテ去
リ後ニ就テ判決四十点ナリ

三日(月) 節句飲

七時二十分起申八時登校 正午長先節句飲
即歸ハ四時五十分帰宅 直ヤ車ヲ飛セテ
平田ニ至ル 今日ハ叔父ノ誕生 日ニ當ル 故余
等ハ祝儀ヲ受ケタルヲ兄ハ今日有る分
為ニ遊説ニ出カケルカニ諸氏ヨリ金ニ内
我妻氏ヨリ一内ヲ奪ヒ来レリ 余ハコト告報
ヲ得テ軒ヲ入リ 喜ビ勇ニ平田ノ祝儀ヲ受
ケル人ハ子爵品川弥次郎君ノ一子 弥一
殿、松浦長春君、全令丈人、茂木百太郎、
莊原知、及高木弘ツノ他ハ年等兄弟三人
ナリ 馳走ハ可ナラシカ 酒ヲ交ルニ飲ミ
得ザルハ 遠慮ナリ 酒食 終リテ 式木氏ハ
五郎正宗、傳ヲ講述シタルガ 其巧ニハコト
實ニ驚クベキ程ニテ 五郎ガ 結母、為ニ昔ヨ
リハ 政ヨリ 五郎カ 孝行ノ 條ハ 思ハコ
象ヲ 江カシタリ 然ラバ 終ニトランコトナ
余ハ十一時平田ヲ 辞シ 車ヲ 飛セテ 家ニ
ヨリ十一時 後ニ 付テ 判決ニ 十一時ナリ

四日(也) 飲

七時半起キ八時登校四時半帰宅ス今日モ見ハ遊復ト出テ行キタルナリ余ハ天運徭環端ヲ草シ又席稿ヲ刪正ナドレ大ニ時間ヲ費セリ余ハ今日ハ頻リ不思議ナル感想ヲ起シ往時ヲ思ヒ未来ヲ察シル中ニモ余ヲ刺激シタルハ人間ノ愛情ト云フ尙題ナリ余ハ今夜急ニ思ヒ立テ余カ詳細ナル自傳ヲ綴ラコトヲ企テタルナリ然レ当カハ多ク亡ナル故道ヲ著述ニ着手スベキナリ十時見カリ堀内、小形、兩人ヲ有る等ニ入會セリソタルトウ物ヲ悉ル余ハ大ニ満足セリ余ハ見ト共ニ自腹ノ切り合ヒアソバ屋ニ入り次テ深更明月朔風ヲ侵シテヤミ屋ニ飛ヒ入り酒肉ヲ貪食スコノ座ニ奥山岩老郎ト云フ土木工学科三年生某ヲ居リ互ニ益ヲ交換シタルウヤシハ大醉ノ体ニテ今夜ハ外泊スベト云ヘリ工学科生ノ不品行ヤウヤク人ニ失ルル時節次賢ク、十二時半家ニ帰り道中ニ糞ニ墮リ判決ニ十二点ナリ

五日 (水) 飲

七時四十分起キ八時半登校今日ハ
猛風天地ヲ巻キ斗リカモ北風ナリガ
鹿川町通りモ砂烟立テ四方暗ムル中
ヨリ慳シキ姿現ハル出タリ即チ別物ニアラ
ズコレ余ガ鏡眼ニシテソト見ヘシ雪肌
ナリトハ如何? 午後五時授業ヲ終ヘ
山下陸次郎ト本郷ノ方ヘ散步シタルニ山
下ハ余ニ午肉ヲ馬橋ニト云フ余ハ大ニ賛
成シテ共ニ豊田屋ニ赴キ世間ヲ話シラナ
ス七時堀ノ家ニ歸リ又シブニテ沐浴シ積
ル垢ヲ洗ヒ浴ニ食事ノ後喫茶セシガ
微酔(豊田ノ)気味トホ去ラスガソ
日記ヲ認メ且ツ旧日記ヲ復シナドシ
テ思ハズ時ヲ費シフト時ヲ計ラズニ
二十時ニ近シ余ハ奮然志ヲヒレガ
シ大ニ且ツ陸ノ村ヲテ(豊田ノ家ニ)
起テ強ニリカ、リカ目覺ハ非常ニ
大方寒シク余ノ背ニ結果モナク一
時半陸ニ於テ決テ三十分ト知レバ

二月廿日(木) 飯

七時五十分起キ直キ藝授四時五十分迄
電ス日暮ヨク山田鏡死氏来ル北第ニ珍案
ノトナハ酒ヲ置テ物洗ワセテ肴ハ貝ノ柱ニ
豆腐ト如ルヘシ酒甜ニシテ演藝及藝友夫
ノ電出テタク山田ハ中ロノ洗眼者(コ道
ニ)一々明細ハ評ヲ下セシカ歎ニ適切ナリト
覺ヘタリ山田ハ二十四孝ヲ得志ニテウナリ聞
クセタク又先代鏡ニ餘程心得展ル風ナリカ
免テ南モ声ハヨシ節ハウマシ學生ニハ珍シキ
藝人ナリ山田ハ米沢在リモニテ傳シカ父ハ氣
ノ絶女ノ門人ナリシヲ傳シテ十四歳ニシテ上京
シテ八九歳ノ頃大ニ艶聞アリ當時ハ性直ニ
勉強シ居ル風ナルカ世オモテ長シ周旋家ト
呼ビル藝人トモテハヤサル米沢ノ如キ巴郡ノ地
ニ生レテ斯クモ悍案トナリ得ルニ山田ノ外ノ聞
ナザル可ナリナリ山田ノ如ク余ハ餘程歐
風ニシテ直キニ窟ニ就ク

二月七日 (金)

八時起キテ登校五時加電ス之由來務ス
余ハ日暮ヨリ大塚齊集会ニ至リ三四社ノ
演説會ニ臨ム才一席石井路夫君ハ建
築ト美術ト云フ題ニテ美術ノ定義ヲ下ニ
抛板ヲ分テ建築ニ應用スルニ次ヲ述ベ
ラレタリ次ハ只野君ニテ清水鮮ヲ越ヘ後
濃川ヲ下ルト云フ題ヲ道中地ヲ面白ク説ル
次ハ藤原直野文ニ君ニテ英國グラスゴー社ノ
博覧會ノ景況及一般ノ風俗ニ就テテ説ケル
タルガ其面白キテ後同クナリキ笑ツ博覧會
私立トニ云ノ豪勢出立ニテ家産ヲ建築シ
一平子尺ニシテラダラシク出品人ニ貸与スル
由構内ハ店ヲ作り入札ヲ以テ商人ニ貸ス一軒
ニテキボンドヲ拂フモサハアル由キボンドヲ拂ヒ
ル若ハコノ店ヲサシキリテ商人ニ貸シ忽チ其
利割潤ヲ得ルト云フ大ナル機關ノ類ハ持
主ノ氣ヒヲ使用シモラウニテ日本ハ此ノ省ヨリ
振料ニテ借ルナド云フナキ由荷物ノ空箱ヲ
預ケテ商賣トスルモノアル由石炭ノ諸商ヲ見
本ヲトヨセツルニテ支辨スル由石炭商ノ直ニ
コノ由テ廣告ニテ花袋ヲ求ムルニ云フ迅速輸送ヲ

ル市街ハ辻々ニ廣告滿リ辰ノ鐵道跡路
ノ兩側ナリ壁ハ一平方尺表ナリ價ニテ廣告
ヲ滿リ辰ノトモフナ博覽會ノ構内ニハ魔泉
アケ電氣燈ヲ以テ水ノ色ヲ種々ニカヘルコト
其他愉快ナル物殘リ多シニ一々ヲ見スルコト
能ハズ夜終テ集子ヲ散シ九時半退場ス
余ハ家ニ歸レバ家兄トニ在佳ハ酒飲マシコ
エトヲ發議ス余ハ之ヲ辭シ何事モヒスレテ
十一時後ニ就テ判決三十五点ナリ

二月八日 (土)

八时起テ直ニ登校ス正午長老部来ル
余ハ日暮ヨリ浅間部正部氏ヲ訪フ不在
ナリ依テナ吉次氏ヲ訪フ長岡先生ハ不在
リ由テ下條路雄先生ニ視キテ有る事ヘ入
ント思ヒ同氏ヲ訪ヒ此ニ同ク不在ナリ因テ子
息虎次部氏ト相テ宿ヲし身軀ヲ同家ニ留メ
再ヒ浅間氏ヲ訪フニ在宅ナリ由テ有る事ノ可
矜ニ就テ色々布蓋ナリ控テ訪ヲナセリ浅間ハ本
舎ノ後来ノ慶ヘテ守屋ニ一時寄附金ヲ募ル
ニトテ視ケリ彼ハ本月末ノ者スル由知リ
リテ遊視ニ尽カセト云ヒハ較母シケ頃ニシテ
ト見添死氏来リルバヨキ折ナリトテ同氏ニ
賛成入事ヲ乞ヒ此ニ依リ一義ニモ不及賛成シ
タルカ彼ハ餘程ノ善人ト見受ケラルナホ守
屋ノ將來ニ就キテ一義ヲコラシヤ時留シテ
家ニ归ル途上月明カニシテ星露シ鳥鵲南ニ
飛ビ樹ヲ廻ル幾根枝ノルベキアルカト心ニ
祈ル神ノ加護ヲ向ル水モ滴ル外思フ
斗リニ牙ハタル玉受ノ影サナケクテ明ルクテ
心ハイトノ樂クツ。ソノ癖風ハ冷タクテ。行
クテハ遠キ本郷路。無クテ七癖引手ニ畢ル

一夜ニ夜。見渡シ嫁御。見渡セバア
オー柳。柳ニ蹴鞠ノ履グデル。柳ニ燕
ガ飛ンデイル。ホイ。飛ンデ火ニ入ル夏虫。觀念
ヒロゾト斬ッ付クルヲ。心得タリト受ケ流スモ。又
受ケ出スモ金故ノ。質屋ノ庫ニ素ツク合点。合
点ガイタカコレ忠サン。爰ハ名ニ逢ッ水道橋ノ水
心アルバ奥心。奥ト云フ字ヲ思ヒ出ス。奥長奥
什ハ湯島ノ天神。天神様ニ願カケテ。通シ
セ一通ランセ。ヤツトコサ。ヤツト登ッテ壺岐殿
坂。眞モハズンデ臆ツブレ。元町ヲ町勿論
ノ事。眞砂ノ町ノ尽ナキ。思ヒ積ルバミナノ川。
ドント流レテ森川町。見ユル巡查ノ交番所。
行ッテ廻リテテ旅路哉。急キ候程ニコレハ
早宿ヲ着テ候。敬服
ヤレクログヲタビレテ外室内ニ入レバ家見トテハ
身當テ夜席ヨリヨリ来ル全ハ今日ノ横風ヲ
預シテ二時暮。此ノ判決三十点ヲ
下ルノ虎以テ却テ學問ヲ全ク校正シテ書キ
タルヲ北帯ノ時間ヲ費シタリト笑ルベシ

二月九日 (日)

八時起キ九時半ヨリ学ヲイリカル年ハ今日
日在屯セバ多ク用友ヨリ押シ寄セシ(兵六州)
甚ク辛苦ニ逢ハントヲ恐レ早々足早ニ家
ヲ出テガ後ニテ岡ノ巴果ニテ山崎、山田、那
那、江原、北村ノ五人襲撃セル由ナリ年ハ
正午ヨリ岡村ノ家ニ赴キニバラクハレハレト
ホクシテヲ弄ビニ時ヨリ一心不乱ニ勉強
ス岡村モ又夢中ニナリテ勉強ス三時頃一
寸休息シ五時半大ニ休息シ夕飯ノち
馳走ニナリ又ロセ時マデ勉強シテ七時
十五分家ニ归リ宮内ヲ整理シ沐浴シ
テ身ヲ清メ日記ヲ認メテ役目ヲ終リ九
時ヨリ再ヒ一心不乱トナリニ心不乱ニ心
不出ト進ミヨリ飛ビカフテ只一太刀。割レ
ムベシ天下ノ英雄ト呼バレル者ハ、青ニオ
伊東忠太先生真向ヨリアビタル又ノ電。
忽ク脳乱ニ轉ハ倒。善ノ報ヒハ
續面ニ心地ヲ見ヘケル。後ニテ死
骸ヲクク見レバヌキト快クガニ目垂リタル
ナリテ判決六十点ナリ今日振起等、大毎
アリカ金ガナキト時ガナキトテ不筆セシナリ

二月十日(月) 飲

七時四十分起八時登校 正午長谷部洋
次郎来ル 四時半帰宅 明日ハ應用力学ノ
試験ナルハ心不付ニ勉強セント企テタル
志ハ以テ外ニ殊勝ナカク受角思フ録ニ
行カス 日暮ヲテ 荒然ト暮レタリ 火登カサテ
スビ余ハ 買物ト外出シ 田中見イバ 田中
中山ノ両博士来リ居ル 余ハ 徳治ノ隣ニテ
ハ 讀書シタリ 両客ハ 明日ヲ試験ガリ、ソレ
ハ忙シ記ダチマキ玉ヘト云フテ置テ 傍
デハンドオルガソヲカキ鳴ラシ始メタリ 余ハ
茶菓ヲ供シタリ 躰ヲ中原室衛来リテ托
合セラス 同宿ノ足立ト云フ男モ入り来リ
テシキニ勝負ヲ争ヒタル 田中中山ハヤク
テ归レリ 十時頃 中原、足立帰ル。余ハ
ヤ、暫ク勉強シ十一時ケリ前 又ト芝メ
牛肉屋ヘ赴キ大食少飲セリ 帰宅ノ後
ハ餘リ勉強モ仕タクナキ故 十二時後
ニ就テ判決五十六点コトナ事ダカラ 金屋
ノ成績ハ得テ又ソカシ

三月十一日(火)

今日ハカ亭ノ試験ガアル日故正七時ニ起
キテサレクシラベハ時登校正午ニ食ヲ終
リテ直ニ登校シ試験ニ臨ムニ尙野ハ左
迄大テ敷クオトモ如何ナルハズニナリ損
ジテ自分チハ七十点ト鑑定シタルガ如何
ニヤ四時半家ニワリテ空虚トナリ尽シタル
胸ヲ休息セシメ日暮マテ焚火ヲ養ヒタリ
夫レヨリ金曜ノ試験ノ準備トシカラント
企テシテ巨頭月返未ク本復セザレバ已ヤト
ヲ得ズ安坐シテ鳥羽繪ヲカキテ樂シヨ
他レコノハ朋友ヲ頼マシモノト知ルベシ
繪ヲクキ終リテ余ハ急ニ一ノナラヌヲ作ラシ
コトヲ企テタリ小説識物ト云フ題ニテ脚
色ハ或ル少年オ子ガカレ作リ又オヲ頼ミ
小説家トナリレガカ頃ニシテ迷夢ヲ破リ
自ラ先兆ヲ悔ヒテ已レ履歴ヲ物活ルト
云次ホテ即チ自傳体ナリ余ハ筆ヲ取リ
テ見シク六枚ヲ汗ク草シマス興ニ入りテ
書キツツレカ十一時ヲ報スル時ナリ
キテ筆ヲサレ置テ録ニ就ケリ余モ亦コノ識
物者ノ後ヲ踏ムナリ得ルカ余ハ後

作ら好ハコト非常ニテ一旦筆ヲ執リテ意
ノ向フ所紙上ニアラフニ至レバ前後ヲ
忘レテ書キツバシノ癖アリ余ハ實ニ文學
ヲ好ムモノナリ余ハ有形的ノ思想アルト同
時ニ又無形的ノ思想ニモ富ソツ明日
試験ナド云フ大切ノ日ニテモ余ハ著作ニ
カレバ一向ニコレヲ忘ルイコト尤モ歎スベ
キ限リナリ余ガ試験ノ成績ノ餘リ宜
シカラヌモ偶然ニアラス嗚呼悲ヒ哉
今日内村達次即氏来訪ス

三月十二日(水) 雨天 假一

午前七時半起キ八時半登校正午長谷部洋次郎来ル長谷部ハ近頃シテト余ヲ許ヘ通フコト決シテ余カ下宿ノ下女ナド思ヒラウカニハホリス全ク有為電ノ事務ニ執テナラセバ長谷部ノ本領ニ尽スコト中々至ルモノアリ余ハ彼ノ其クマデニハ思ハザレシ治眼ノ伊東博士モコレ斗リハト見違ヒタリ又ニ反シテ余ハ先キニ小田切ヲ非常ニ褒メタルガ彼ノ思ヒ外ニ治動カケナレ余ハ以テ字技ノ首尾如何ニ由テ甲乙ヲ付ラズナルガコト余ノ失策ヲキ受テ角小田切ハ名ト氣ガ利クト云フ風ナルカバ伊^イ録^{ロク}倉^{クラ}ト云フキハ箱根ノ関ヲカヘルト云フ性候ナリ長谷部ハ拙作法ニテ立テ廻クニハト迂ナランガ已レノ名利ヲ為トナラバ箱根ノ関モ乘リ越ヘフベキ者ナリ宮島ハナホ君年ナレバ評ニ難シニ三雄ハ今迄^イ武^ブ闘^{トウ}ハ甚ク成績ヨクナリガ彼ノ我カオナガラ侍オテ世オモ余ニ一段勝クツ若シ彼ノ心不忠ニ導ケラる研究ニ當ル其オラ藏秘シ修成ルキコトヲ疑ハバ天晴ノ人物トナルベキニ惜哉彼ノ持論ハコレニ反對セリ彼ノハ習字

ガキラヒ = 十書 = ハ非常 = 拙 + ク一ナニナル文小
復休ノ文ナドハ相應ナレモ痛復文ハ拙キ
コ全ノ實際ナル漢學 = 迄レクテオノニ勝テ居
レバナリ 斯ク云フ年ハ實ハ矢張り同撮ニテ
余ハ今 = アハ幼キノ中ヨリ漢學ヲモソツト勉
強シタラシ = ハト思ヒ出ス斗リナリ 兄ハ少キ
時ニハ漢學モ勉強セシ様子ナレガツ割信
ニハ痛復文ナドモ達者ニアラス 余モ痛復
文ニハ餘リ長セザレモ記事文中殊ニ叙事
ノ一段ハ人並ニナリト自惚レナガラ信シ居シ
漢學ハ野暮ジヤト云フド矢張り漢學ガ
大切ナルモノナリ年ガ朋友ニ漢學ニ達スル
者ニ三名ヲ答ケレバ

中村弘一、江原綱、山崎哲藏、
大内丑之助、山口小左郎 等ナリ

和學及ヒ知文ニ長ズル者ハ

中村弘一、岡村龍彦、山岡茂松
等ニ漢學ニ長スルモノハ

大内丑之助、山口小左郎、田中苗太郎、
本堂恒次郎、中村弘一

普通學ニ通ズルモノハ

田中苗太郎、本堂恒次郎、中山茂彦、

世才 = 長々タルモノハ

山田鉄藏, 江原鋼

鯉飲家ニハ

江原鋼, 中原定徳

ト云フ豪傑アリ余トカハ豪傑ト交ハツル
ハイザト云フ片ニ心強レタゞ金満家ニハ

……欠乏シ居ルナリ

七時ヨリ明後日ノ試験下シラベトツカ
リツキ目モフラス勉強シ十一時ニ至リ

頃ハ余程覚ヘタリ余ハ物覚ヘガイート人
ニハ言ハルレモ身分デハナホ甚ダワルシト

考フルナリ併シ天命トアキラメルヨリ外ナカル
ベシト云ヒ度キ所室ハ十時頃ヨリ又ト牛肉

屋ヘ躍込ニテ充分ニ飲食シタリ家ニ
リヨハ微酔ノ体タラトナリテ勉強カシ

モ出来ズ十一時半迄ニ付テ判決三十
点ナリ

点ナリ

三月十三日(木)

又時四十分起キ八時登校ス 四時ヨリ電
一ハ不亂ニ勉強セリ企テシガ例ノ通り
来ズ苦悩大ナラス 日暮ヨリサシク本心
ニ立チヨリ 山田鉄瓦、松本重孝兩人来
テ余ハ明日ヲ試驗ニテ……ト云ヒテ
ソレハ大變ダチト云ヒテ尻ヲ落シ付ケル
ト思ヒ外“ソレハツレハ……マア折角勉強
シ玉ヘ又来テウ。イツヲ試驗ガ済ムナ? ”
“本月ノ末” “ソーガトライツト帰リ行
ケル山田ハ余ヲ信シ余ヲ愛シ余ヲ敬シ余
ヲ憫シ者ノ如ク然リ余ハ平常ノ太平
樂ニモイマス 試驗ニハ真ジノニナルト云
フ可笑キ事アリ(何ノ可笑シキコトガアル
モカ)余ハ矢ヲ張リ凡人デアル。否々凡人
ダト自ラト云ル所ガ英雄デアル。否々英
雄ダト自ラ惚レル所ガ凡人デアル。ト
云フ所カエラヤ。ト云フ所ガ馬鹿ダ。ト
云フ所ガ。ト云フ所ガ。ト……コレハシタリ
併シ余ハ馬鹿ノ英雄ニツノ内ノ
ツナリ(傍ニ人アリ日々多ク馬鹿ノ方ダ
ロー)ノ人

身熱ヲ熱心ニナリテ勉強シ百五十ページ
ノ筆記ヲクツカヘシテ讀ムコト四度ニ及ビ
タリ時計ヲ見レバ十一時ナリ腹ハヘル。
目ハレブル。ナヨツト小刀ヲ腕ヲ刺レテ見
ルニツノ痛キコト堪ヘラズ一ナ目眼ガサソ
テ又トロイト睡リカハル今度ハ手ヲカヘテ
熱湯ヲグイト飲ムニイツレカ全ク冷クナ
リ居レリ。一時終ニ撥ニ執ク
判決七十五点

三月十四日(金) 飲

今日ハ珍ラシクモ六時に起キテ勉強シ
リ九時登校ラ武蔵ニ臨ム自分デハ
九十点位ト思ヘドモ實際ハモト少カ
ルベキ也

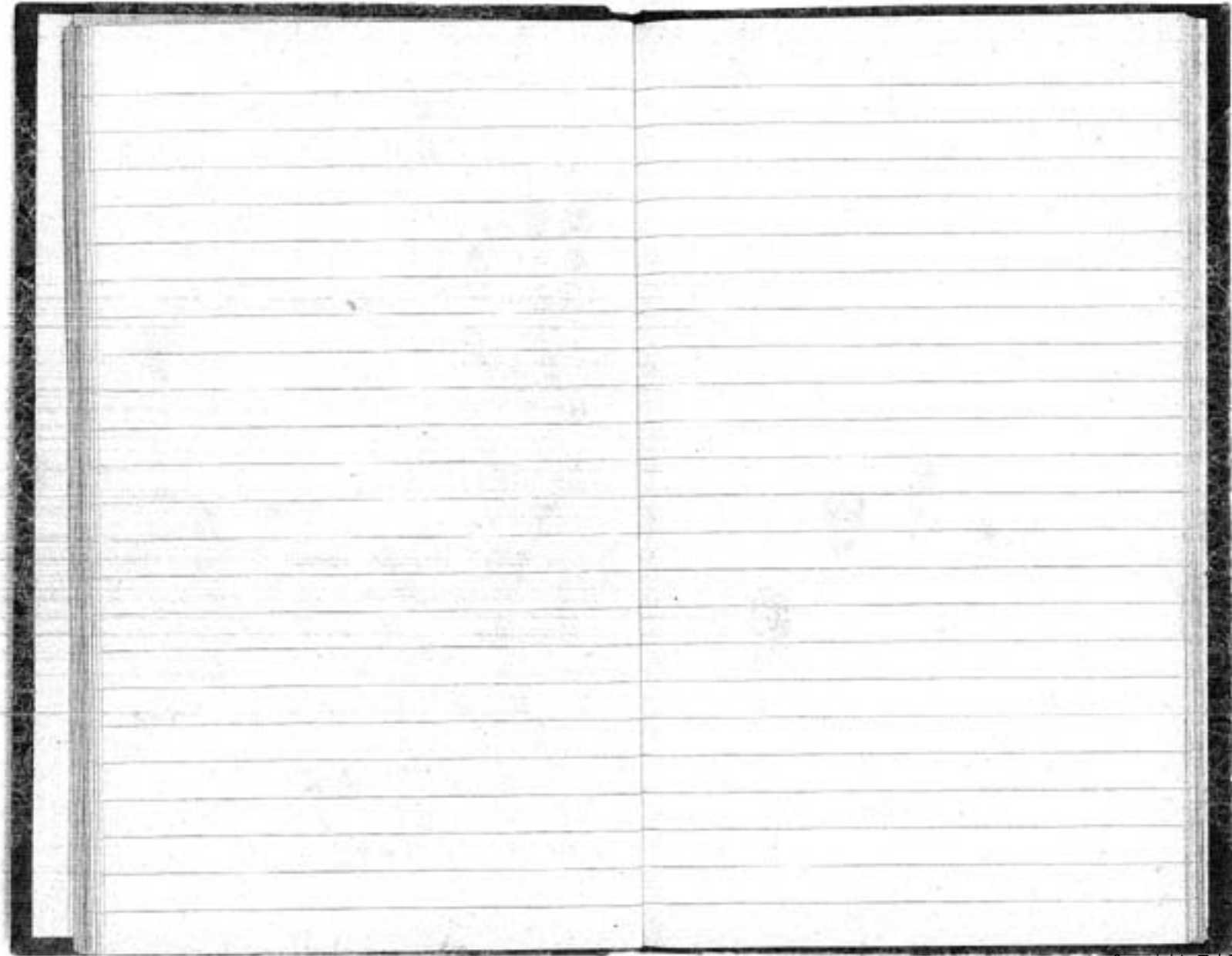
正午長巻部隊次即来ル再ヒ登校ス
時勿宅ニテ大ニ休息シ日暮ヨリ草紙
ノ校正ニツカソ終リテ日記ラシム
八時同宿舎生足立課一即氏来リテ世
間談シニ時ヲ費セシカワハ夜ヲ先ハ主ト
シテ今日學生ノ地位學士ノ相場等ニ
テ中々面白カリキ十時半足立氏歸シ
リヨル余ハ兄ト其ニツバ家ニ至リテ一合
ノ酒ニ酔ヒ一腕ノ天テラバ飽キ飲ミテ
行ケシク學課ヲシラベ飯ニ就ク判破
三十二点ナリ

三月十五日 (土) 記

今日ハ地質学教師ジョン・ミルン氏ニ從
ヒテ横濱へ地質實習ニ出カセル筈ナレバ
六時半起キ出テ七時家ヲ發シ八時三
五分ノ海車ニテ出京セリ同行學生ニ十
名ト同車ニテ久ビブリニテ鉄道ニ乘リタリ
海車ハ急行ニテ矢女ニクスター・ジョン
ヲ通リ抜ケ神奈川ニ着シタル途中ハ
両方田圃打ケツバキヲ葉ノ花ハ黄
菘苗ハ緑ニ色カノ海原ハ藍ヲ海ノ
出し気色ハ佳絶ト云フ外ナクモワレシ
心モサツパツト晴レタルガ暗シヌハ今
日ノ天気ニテ寒風ニテハ、寒ケレハ皆々
大ニ弱リ果ツケテ横濱ニ入リテ見レバ
久シ振リノコトヲ珍シク余ハ建物ニ注
目シツハ山ノ手ヘト登リ百五十七番館ノ
前ニテ教師ニミルンヲ待テ居タリヤガテ
ミルン先生ニ来リバ「ロソートルヲテ渡
シテ高サヲ測ルニ海面ヲ抜ケ凡ソ百尺
ナリコトヨリ海岸ニ下リ行クニ途中ニテ
ミルンハ見レ物ニ付ケ一々講釋シ
タルハ面白カリキ丈ニソ波打ケギハ

21 45
中世の
断崖

出づれば内海、コトナレバ、波ハ高カラザ
レ、ナホ打テ、石ヲ洗フ有、採実
ノ爽快ト云フモ、愚ナリ、只、貝ノ百尺ノ
断崖ハ、直ニテ海面ニ、山ヲケタル
面ニハ、歴然タル地層ヲ示セルカ
表面ハ、黒色ノ *vegetable soil* ニ
テ、次ニ *Gravel* アリ、其次ニハ、種々
ノ、変色シタル *Tuff* アリ、内ニ見
類多ク、化石シテ、食マレタリ、學生等
ハ、手ニ手ニ、植ヲ以テ、岩ヲ砕キ、貝
類ヲ取リタルカ、コノ貝ハ *tertiary*
ノ、産ナリ、ミルン⁷ハ、地層ノ *fault*
及ヒ *age*, *inclination* 等ニ、就テ、透
明シ、丈、四ノ南手ノ、海岸ニ、至リテ
depression (陷凹) 及 *Uplheaval*
(隆起) ヲ、実地ニ、見セタリ、即チ、海面ヨ
リ、一、向、乃至、二、向、高キ、所、*loving*
shell, 穴、跡、アル、所、以テ、土地、ノ、隆起
ヲ、正セシナリ、十一、吋、過キ、ミルン⁷ハ、
別レテ、去リ、余等ハ、海岸ニ、テ、行、厨、ヲ
ツ、カ、ヒ、十一、吋、至、十分、再、ヒ、コ、ヲ、去、テ、リ、
路、ニ、向、フ



コヨリ停車場マア 二里ニ余リト云フ人ア
余ハ殆ト二里ナリト云フ或ル人ハ一里半位ナ
リト云フ又或ル人ハ一里位ト云フ甚シキハ一
里ニ充タズト云フ 嗚呼工学ヲ修メ日
々量ヲ習ハス人ニシテ斯クセルコト五ニテ算
ヲ置ニスルコト 嗚呼不思ヲ云フナリト云ハザル
ヲ得ズ 余昔ハ十二時ナリト云フ 汽車
ニ乗ラントテ非常ニ急キテテラ流シ
一時間ニシテステーションニ達セタリ蓋
シフルヨリ考フルハコノ行程ハ一里二十五
町位ナリト云フベシ 汽笛一声渡ラ
登リテ 急キニ乗車スルバ 恰モ田舎
ヨリ 娘ノア 東京ニ乗リタルカ如キ 想ア
リ 旅ノ愉快ヲ思ヒ 出テ早ク更休
ニシテカエト 思ヒ 必シタリ 余ハ河合
源次ト云フ 男ト同車シテ上野ニ来リコ
ヨリ 彼ト云フ 只 吾リ 公園 内ヲ遊
歩スルニ 探ハレニ 嘆ケルモアリ 博覧
會ノ 辺ハ 大混雑ノ 様様ナリ 夫ヨリ
家ニ 歸リテ 見ルニ 時已ニ 四時ニ 近シ
余ハ 先分ニ 歸シテ 一時 行キテハ 茫然
ト 休息ニ 務メ 日ヲ 暮シタリ 又

今夜ハ六時ヨリ毎カ行ニテ有ル毎ヲ評議
員毎アリ折込若七郎、山崎龍純、
内村達次郎、津島新三郎、四人来傍
ス其他ハ中俣精一郎氏来リ先ッ
本月初雜造ノ材料ヲ探定ニ次ニ
雜造ノ改良ヲ議シ最後ニ本月
飛鳥山ニ於ケル運動會ノ手筈キヲ
相討シ十時頃一同退散セリ引
キケヒテ足立氏入り来リ見立ト囲基
ヲ造リテ興ヲ添ヘテ酒ヲ
命シ又第八明後日ヲ試飲アルモ今夜
ハ心遣マ又故明日柴明ヨリ夜半マ
テ勉強スルヲ決リセシテ五ノ版長成
ナルヲ明日来ルト云フ手紙ヲココロタリ
年ハサレク弱リタレモ平氣ニテムガ書キ
ト酒トニテ今夜ヲ潰シテ終リニサレ
テ勉強シテ十二時頃ニ就テ判決ニ十
八点ナリテハナク見立ト足立ハ稽基ヲ
囲ミタルカ双方自惚ヲ吹キタルコトナ
レバ互ニ負ケト争ヒテ終ニ二時頃
カレテ各臥戸ニ入リ余モ亦ソク食ニ
ニ時ヲ起キテ及タルハ中カ大役ナリ

三月十六日 (日) 歎

二時後：就キタルコトナハ今朝九時マテ
 履込ミタリ起ルソグ倦弱強ニトツカハルニ
 山田守弘先生入来セリ由ヲツマラヌヲ在
 下ニ：時ヲ費セシロ足ト共ニ春才座見物
 出カケタリ余ハ羨マシケレバ是非ナリ書ニ
 向ヒタリ午後一時五十嵐義成先生入
 リ来ル余ハ華果ヲ供シテ快ヨク在座セ
 リ五十嵐ハ小説ヲ有る今雜誌ニ載セシ
 所大不判評ニテハ方ヨリ攻撃ヲ食ヒコ
 ルト氣ノ毒ナガラ彼レモ彼レナリ己レカマ
 モ顧ミズシテ嘔吐ヲ催スベキ拙作ヲ自
 慢廢ニ出セシトヨ。ソノ拙キ文ヲ掲載シ
 タル編輯人伊東忠左エモ伊東忠太ヤリトテ
 非難スル人アルカハ矢レヲ子ト余ハ一向平
 氣ノ平左エ門ナリ。五十嵐ハ怒然トシテ余
 ニ向ヒ“世人ハ何故ニ斯ク迄余ノ文ヲ非
 難スルニ一休未レ信年暮ハ小説思想
 即ケ通…”ト云ヒカケテ急ニ引キ込マシ“義
 術”トマテ云ヒキヲザリシハ遠慮ノ至リタガ
 〱ト跡戻リシテ“小説思想ニ至シキニハ困
 ルモノナリ”ト出直セシハ笑止ナクシ

三層五十嵐 明々五十嵐 今専門学校に通
學し倍々和學ヲ學ビ歌ナドヲ作ル生兵
法ハ大キスノ基ニテ先生ハ和文ト漢文ト
ヲノケキクケキニ混用シテ得意ノ色ナク
彼ノ"花爛浦ト咲キニケリ"ヨリハモウト
烈シキ用法ヲカラスト知ルベシ 然レニ
五十嵐ハ和歌ニ巧ナリト云フ人モアル
カ世中ガ持テ、行クナリ余ノ如キ
エラキ人ノミナラベ (又シテモ熱ク吹クヨ)

.....
總テ佐藤深次郎来ル先日米尺ヨリ
归レリトテ汚ヒタルナツカシ母内ノチ
筒ヲ受取リテ喜ビタリ筒モナク深次郎
归ル余ハ彼ニ米尺ノ量況ヲ米青シク
ヒテ大ニ粟シニタリ日暮見ト山田春木座
ヨリ归リ来ル即チ酒ヲ命セシ余ハニ三
盃ヲ化順ケタルノニ頻リニ勉強シテ十
時半ニ達シタリ夜明ナル迄ト奮發セシカ
終ニ寢ニ就キタリ判決五十点

三月十七日 (月) 飲

今日ハ試験、当日ハ午前五時四十分
起キ八時マテ勉強シ吏ロリ登校一
時ヨリ試験ヲ受ク成績豫算左、

如レ Building Construction

伊東 真水 山下 河合

80 70 75 68.

Building Material

88 77 80 75

五時半帰宅見ハ江原来リ居レリ余
ハ重荷ヲ下レテ大ニ安堵シテ折テハ大ニ
喜ヒテ寝テスル中南音孝吉氏来ル南音
ハ江原ト余等、豪放雄快ニ寝テテ
胆ヲ奪ハル始終無ク一時的半、後日
以余等ハ(又ト余ト江原)吏ロリ豊国屋ハ
押シ入リテ飽クマテ飲食ニ思ハズソノ
坐ヘ安眠セシカ十一時頃酔全ク醒メ家
ニ归リ獲レテ判決三十点ナリ

三月十八日(火)

七時二十分起キ八時半授五時半帰
宅シ休息スレバ日暮ル余ハ著述ト画
トトツカリレガ纏マツタル仕事ハナシ得
ス勉強モイヤナク即チ坐敷ノ整頓ヲ又
ノ箱ノ底ヤ隅ヨリ旧キ書教ヲトリ出シテ
一々検査シタルガ中々面白クシテ大
衆シヨリ余ハ屢々斯カルコトヲ行ツガ
存外時間ヲ費マモノニテ今日モ十時
頃マテ費シタリト知ルベシ十時半授
ニ付テ判決ニ十六点ナリ

三月十九日 (水)

七時半起キ八時登校四時半帰宅。赴キ
山崎松尾の宿ヒテ雑居上、夜更ナレバ
山下隆次郎の宿ヒテ筆記ヲ借リ支ヨリ車ヲ罷
シ飯田町ナル芥川稿ヲ即氏ヲ訪ヒタルコトハ難
シ原稿ニ就テ、夜更ナツソノ中、下條虎次
郎ノ草稿ヲ掲ベキ由ニ云フ芥川ハ大ニ非難シ「文
章ハドダ? 主意ハ? ナル成イリ……、全体マ
何事ヲ書イダ!」ナド云フ故、余ハ十分ノ費ヲ通
豫ニシテ芥川草稿ヲ探ス芥川ハ復シ終リテ「ナル
程コトハ善シ、至極善シ惜哉 論ハ録ス足リス」ト云
ヒキ嗚呼人ヲ以テ事ヲ廢スルノ風ハナク免レズ去
正隆ノ痛海ヒレモマトニ故アリ去テ長谷部ヲ訪
ヒ支ヨリ治版所ニ赴キテ注文シ家ヨリテ原稿
ヲシラベタリ十時半ノ地鉄乗リ研索シ十二
時後ニ付テ判決四十点ナリトス。今朝内
村連次郎氏原稿ヲ編輯シテ余ノ寓ニ持
テ来ル内々急ヲ入レテ編セラレシカペーシ紙
上大ニ誤アリシハ、尚ロセテ

計
計
計

(春皇親祭) 三月二十一日(金) 飽
午前十時起キテ 明日ノ式 豫メ準備ニ
トシカニ十時同村熟考先ト來ル 正午皇
國屋ニ入リテ 少シノ酒ト肉ニ飽キ 史四ツ上
野へ散步ニ出ケシカ同村ハ 巴チ 暮ニ立テ 寄リテ
待本ヲ取リ 懐中ニカルハ 風流當ニト云フヘシ
上野ハ 中々 雑管ニ 桜花ハ 岸ハ 真盛ッ
キニ 日見ニ 同トハ ヨモズヒシモノ哉 同ト云フ
同村ハ 甚チ 支藤ニト云フ男ニ 逢ヒ 三人連トツ
テ 散步セリコノ 藤ハ 同村ト 同級ト云フ 又 孝思
想ニ 属シ 常ニ 一席ニ 居リテ 笑ハ 一席ノ 傳
アリ 今日 只一人ニテ 目黒地ヲ 漫歩セリト云ヒシ
カニ 其氣風ヲ 知ルベシ 三時半 家ニ 归
リ 勉メス 日暮 内村 蓮次 即來ルコトハ
来月 車坂 地方ヘ 赴クトテ ナク 一時 百ノ
後 往シ 四ノ 年ハ 又々 勉メ 志サシ
茶ヲ 以テ 睡ア 拂ヒ 一時 寢ニ 熟シ 判決 六
十八点 〇 上野ノ 桜花ハ 心ヲ 建テ 物ヲ
ナシ 全ニ 避テ 俗塵ニ 汚ケル 噫 惜ク
思フナル ベシト 余等ハ ヲ 考ルヘシ

三月二十二日(土)雨 飲

午前五時起キ八時登校地質學ヲ修メ
夕受ク問題ハ全ク日暮満員スル所ト異ナリ
以テ其人先分席カテレバ之ヲ柔辨スルヲ得
ズ教師ニレバハ學生ト見做シテ
我リ方ニ研究スル責ヲ負ハレタリト奇特
ナル午家イヨハ長光部洋次郎來ル雨
降コト烈シキハ晴ハニトテ雜ラテヲナシ
ルガ四時半頃足立氏入リ來リ長光部ヨル
ヤガテ今泉嘉一郎氏來ル五時迄キリヨル
余ハ日暮後岡村ヲ行ハレトスルニ雜原保
福ヲ携ヘ來レリ校正ニ着手シタカフ面倒
ナルコト甚ク且ツページ數ノ加減ナソク
ニ腦ヲ費メシ九時全ク終リタカハ最早
岡村ヘハ行カス見ハ最善ヨク足立氏ト團
甚ラ始メ一勝一負夢中ナク聽テ備テ命シ
ソバヲ食ヒテ浮世洗ヒテナシ十二時足立
リヨル直クニ電ニ就テ判決三十八点ナク

三月二十三日 (日) 歎

午前七時半起キタルの試験已済シ又何
ト云フヲ為スベキトモナキ故ホカニシテ時ヲ
費ヤレ岡村ヲ訪ハニトスルニ十時ナレバ時刻
半端ニ面白カラズ 躰ヲ山田宇弘来ル
余ハレバラヲテテ晝食ノ後岡村就テ
テ尚フニ先生折ッレタルガニテカキ鳴ラシテ餘
愈ナレ躰ヲ筆葉ノ間ニテテ始ム岡村
ノ學友二人来テセリ四人ニテ四方山ノ雜談
ニ接リカ四時頃ニ案ヲ閉ル余ハ岡村ト共
ニ上野ヘト散步ニ出カケタルガ今日ノ天気大
量ヲタルニモ閑ラス 群集ノ貴賤光系數ヲ
知ラズ 櫻モ已ニハカ通りハ開キタルカ博
覽會ノ為メニ雅致ハ全ク奪ハレタリ六時
余ハ家ニ歸リ夕食ヲ終リテ直ニ岡村ヲ訪
ヒ共ニ日本ノ drama ト云フ點ニテ論文
ヲ草シタリ余ハ久シク習ヒ文ヲ作ラザルガ為メ
筆鋒大ニ鈍クナリタルニ流石ハ老ニシテ
中々甘クモヒ廻シタリ岡村ハ本科一年ナレバ
来年ハ大學ヘ行クナリ長考ニテ田切ナドモ
去来年ハ大學ヘ行クナリ併シテテテテテ
実カラ論ズレハナキ甚ク幼穉ナルガ如シ

凡そ語學ハ専門科ハ修ラヌ以前ニ充分ニ
実カク養成スルヲ緊要ナリ然レ人間ニハ語學
オト云フ一科ノオアツテ人ニヨリテハ何程英敏
ニアモ語學ヲ修ラテ成ラヌモアリ智仁ハ一
般ニ語學ノオクトヌヲ日本人モ亦タ多クコノ
オアル様アリテ伊東君。大ニ其真面目
デス子。ナリト内発シヤヨ! 發スルモ發スル
モソラド一タ。オヤ! 何タ伊東君放屁ハ内免フ蒙
ロウ色氣ナキニモ限リアツタ。

岡村ノ論ハ日本ノ淨ルリハ何レモ歡喜ト悲喜
トノ合併ニテ純然タル歡喜ト悲喜トハ強トナ
レト云ヒテ可ナリ(勝栗モハ強ト純粹歡喜ナリ)
此レヲ淨ルリトハ一人ノ主人公ヲ以テ貫徹スルモ
ノナリ主人公カ種々交代スル故實ハ悲喜ト歡
喜トニ区別スルヲ能ハザルナリ朝野日記、忠臣
藏ナドハ貫徹セムモノナレバ太閤記ノ如キハ
支考ニトシテハ悲喜ナレモ秀吉ニトシテハ歡喜ナ
リ而シテ左衛門、主人公ハ實ニ支考ニシテ秀吉
ビテ秀吉ガ主人公ニナリシナリ云々

岡村ハ元來文學ヲ好ムコト甚シク今区別ヲ考
メナガテ執ノ上ニハ此レレハレツレレク「レ」ナリ
倭文範、及詩文ノ書數堆ラ成セリ又嗟!

傍ハハントオルガニアリツ傍ニ唱歌本多
数在セリ、彼ハ演劇ヲ好ミ、浄ルヲ好ム
又詩ヲ詠ニ文ヲ儒ス何ニロ医学ヲ修ムル
物ト見ヘズ横カヲ見テ堅カヲ考ヘテモ文
學者、芽バヘナリ
岡村カ斯ク文學志望ノ閑達セハ何故ゾ
云フコトハ全ク余ガ誘導シタルナク抑ニ余ト
岡村ト交際ノ順序ヲ記サレニ余ハ十五、春
岡村ハ十二、春共ニ遊ビテ平塚定次郎氏
ノ邸ニ寄ビシ時如何ナル故ナリト余ト彼ト
用友ナレリ余ハ彼ト遊ビテ研究セリ余ハ彼
ト往來シテ遊ヒ戯ムルナリ彼ハ「マダ」紙寫ヲ
飛バシテ狂ヒタル頃ナリ彼ハ、好連ハ「マダ」勤ヲ
弄ビタル頃ナリ余ハ小説ニ熱ニ浮カセテ學科ヲ
棄テハ犬傳ヲ讀ミ一月ニ貸本代一円ヲ拂
タル頃ナリ。ウレバ岡村ハ余ト交ニ從テ余ノ
性ヲ受テ終ニ小説ニ熱心ナリ至リ。余來彼
ハ學科ヲ忘レテ小説ヲ讀ムナリ余ハ彼ニ畫ヲ
傳授セリ。彼ハ文章ト詩作トヲ傳授セリ。彼
ハ余ノ弟子ナリシ。然リ彼ハ凡テノ物ニ執
テ余ノ門才ナリシ。余來彼ハ「ヨク」文字ニ
熱心シタルノ學徒ノ首尾ハ常ニ書カレリ。

彼は一度ナラズ落才セリ。彼は二年以上ノ後
シヲ取リ。コノ後シヲ来セシモノハ唯ソヤ。伊东
公吉リ人ナリ。余ハ實ニ彼ヲシテ損失ニ隔ラシ
メリナリ。然レモノ事實ハ彼ノ爲ニ何程寛ク
シ。又何程利アリシヤ?。余ハ俄カニコレヲ判
決スルヲ得ザルナリ。

余妻余ガ又學藝ハ漸次ニ下火トナリ。彼ハ
藝ハ但ク激昂セリ。彼ハ詩文等ニ余ニ勝
ルニ承ナリ。彼ハ出藍、オアリナリ。斯
ク余ト彼トハ今日ニ至リタルガ今日トハ兩人
相見バ必ず又學上ノ言ヲ出サナスナリ。嗚
呼余ト彼トハ實ニ親友ナリ。明治十四年女
ヲ交レコリ今ニ九載而シテ情態ニ濃ナリ。余
ハ周村カ毎歲身長ノ増スヲ賞賛シ周村ハ
毎年余ガ鬚根ノ増スヲ称賛ス。余ハ毎年彼
レカ器量ノ増大スルヲ称讚シ。彼ハ毎年
余ノ學術進歩スルヲ称賛ス。兩人ハ互ニ謙
讓セリ。故ニ親ムト虽凡而シテ狎ス。礼必
ズ其中ニ在リ。兩人ハ互ニ相切磋ス。故ニ言
ハ往來々々野鄙凡俗ニ流レズ。兩人ハ常ニ
手手相携ヘ苦樂ヲ共ニ而シテ社會ノ上流ニ
進行セシト名クマルモノナリ。

凡人ノ交際スルニ親密ノ内ニモ必ス威嚴
ヲ存スベキナリ然ラザレバ案レテ淫シ親レテ
狎ルノ實ヲ生スルヤ必セリ 夫固ハフレンドト
ハ一生人ニ狎レ近ツクテ許サバリト云フ余等ハ
到底斯ノ如キヲ能ハズトモ可成ハ狎ルコト
ヲ慎マザルベカラズ 余世ノ親友ト云フモノヲ
見ルニ往々相狎レ親シモアリテモ年程モ長
ト云フコトヲ知ラス 余ハ斯カレトハ尤モ排
弁スル可ナリ 余ハ親友大内丑之助ヲ見ルニ
彼ハ未ダ嘗テ狎レタル行アルコトナレド余
カ彼レヲ尊敬スル所以ナリ 大内ハ何程親
シモ打テ解ケルモ馬鹿ヲ知ラズルモ暗ク内
ニ一種ノ威嚴アリテ狎レ近ツクベカラザルモノ
アリ 彼ハ實ニ敬スベキ人物ナリトス
余ハ可ナリ多額ノ网友ヲ有セリ 然レモ岡村ヲ
以テ最モ古友ナリトス 此ニ次テ中條池田 4 坂
1 3 友ヲ得タリ 然レモ中條ハ五十点位ノ人間ニ
シテ到底余ハ苦案表出ラズニスベキトモ思ハレ
ズ 池田ハ七十点位ナルモ至義ノ異ナルカ爲メ意
中ヲ尽スオト能ハズ 4 坂ハ五十二点位ナリ 往
ハ海軍士官ナリ 余ハ好敵手ニハアツグニナリ
次テ血腸守之助ヲ得タリ 此人ハ六十点ナリモ

何トク面白カラザル所アツ

夫レコト後ハ今ノ講義會ニ員ニシテ那珂起
外ヲ除キ外ハ皆六十点以上百点以下ナ
余ハ一ニテ評論セザレバ大内ヲ百点トシ三宅
ヲ六十点トシ他ハ人々ノ中間ニカク知ル
ベシ

大内	実着家, 実学家, 剛毅家,
田中	勤勉家, 博学家, 學術專家,
中山	敏捷家, 周轉家, 學識家,
中村	慷慨家, 放膽家, 氣節家,
木堂	勉強家, 正直家, 薄皮家,
山岡	勉強家, 沈黙家, 突岨家,
三宅	大勉強家, 偏屈家, 局踏家,
那珂	懈怠家, 貪飲家, 浮萍家,
其他	

江原 剛膽家, 機敏家, 出沒家, 幻影家,
慷慨家, 空想家, 多才家, 獨歩家,

米田 踞躄家, 小胆家, 文法家

岡村 文學家, 風流家, 飄々家,

内村 熱心家, 正直家, 野篁椿

長谷部 綿密家, 自尊家, 我意家

畑加 小才家, 辯舌家, 誤變化家

山田鉄兜	遊藝家, 人情家, 交際家, 周旋家
山田守弘	無鵬家, 叫喚家, 気取家,
中原	悠々家, 無慮家, 好?家,
御供	屈理屈家, 屈托家, 律義家,
楠川	微慢家, 多辨家, 虚飾家,
令泉	陰藏家, 研究家, 馬食家,
真水	器用家, 小刀細工家, 放任家,
山下	飛揚家, 雷同家, 無主義家,
河合	馬鹿丁寧家, 好色家, 吁鳴家,



愛は金錢貨財ハ山ノ如ク學問ハ上ノ出来コ
 トモ唐琴屋丹次郎ト云フ面想ニテ多オ多
 藝ト云フ人物ガ欲シキモノナリ斯レハ人ア
 バ天下向フ所敵ナカレトハ江原ウロ癖ニ
 云フ空想ナリト知ルベシ
 人間ノ智識發達ハ年ノ比例ニヨリモハ此ノ
 要スルニ三種ノ區別アリハ年ニ比例シテ
 順次ニ進出スルモノニハ女は終同一度ニ
 止マレモ、三ハ年ヲ経ハテ從テ漸ク減少ス
 ルモノ、此ノ岡村ハオノ一種ニ屬シ余ハ恐ク
 ハオニナレバト自信セラル然レオ三ハ年モ
 失ルニス又オノナリト云フ人モアルベシ

午後十時岡村一其、聖国危ニ赴テ酒
肉ヲ食スル岡村、酒量ハ余半分ナリ
次ニ酒量表ヲ掲ク

江原：一升余	中原：一升余
伊東忠：六合	村井：八合
行徳：一升	石橋：一升余
安藤：一升余	梅原：五合
伊東忠：六合	那珂：六合
花田：八合	門馬：一升余

岡村ト四方山、酒ヲ飲ミタルガ岡村ハ酒
ニ余、俊才ヲ愛スコレハ酒ヒタルハ非ザル
ベシ共其味シテ實際ニアラス余ハ又彼
ガ英才ヲ称シタルモ實際ニハ多ク非難スベキ
点ナキハアラス然レモソコノ處ハ双方ニテ明
サニ言ハズトモ互ニ知レルコトナリ云ハヌ
ハ云フニ付増シテハ吏シコト辺デアルカ？
十一日過キ家ニ別リ見ニ其才来テ宿居
リ休ム十日以テ其由ヨリ相州地方ニテ
山林ヲ業実修ニ出張シ今日归来ニシテ
ハ来レルナリ余ハ吏シコト有為分難ク
校正ニ従フシタルカ微醜ノ気味ニテ甘
行カズ然レ生醜本性難クズト云フ本文

トバツツ無ッ授正ヲ終リタリ十二時比
家見酌酌ノ気味エテハ後エテ固ク
家見ハ山田子ト蒲刈ト飲ニ以テ中
原定衛ト奥長ト飲ニ終ニ酌卒ヒツル
タリト判決二十五点トス

三月二十四日(月) 飲

午七時起キハ時老授一心不亂ニ
客課ヲ務メテ五時半初起シ日暮食ヲ
終テ見物三人酔ヲ買ハレテ行儀ス七
時頃ヨリ三人家ヲ出テ笑フ本以酒後所ニ
赴キ夫レヨリ壽本町ノ或ハ料理店ニ登リテ
大ニ飲食ステ強ハ種々百出ト云フ次カ
ナリカ殊ニ余ハ、ジョン・エレン氏ノ博識
多ク吹服シ且ツ地獄字ヲ談シ、
景況ヲ物言レシニ雄ハ実修ノ景況
ヲ物言レタルガ中々面白カリシ猥シハ
放蕩家ノ閑場ニナリシ云フ怪シカラヌト
モ世ニハアレバアルモノナリ。吾ソナニ
驚キ玉フナ伊忠先生！ソナ事ニ驚キ
玉フ極デハ世ノ中ガ渡シマセンヨ。見玉ヘ
修ノ野馬ハ已ガヒツタ尾ニ驚ヒテ高ク嘶
ク。已ガ作ヲ出シタル驚キノ強ガ實ニナルトテ
驚ク位ニテハ天下ノ英雄トハナラズ者ナリ。
左レバ余ハ臧多ニ驚キタルコトナレ。此頃一日
見ヌ間ニ櫻ノ咲キ。二日見ヌ間ニ櫻ノ散リ
三日見ヌ間ニ秋風カ吹クト来ク日ニヤ一深石ノ
拙者モ多ク驚カザルヲ得ンヤ

余、鶯、オトハ大キヲヒナリ。誰モ鶯ノトガ
スキト云フ人ハアルマレ。カレドモ口癖ニハ鶯イ
タト云フ人往々アリ。如キハ鶯、ベキ時ニ
イハスマシク居ル方ナルバ、仲間入ツハ者ハ見
合セ申スベシ

余ヲ評シテ遊藝ニ通ジタル人ナリト云フ人世
間ニ往々アリ。如キ何ナル辺リノ斯ノ如キヲ評ガ
ア等下ルヤ? コレ他ナレバレノ言行動作、然ラ
シム可ナリ。Ja, ja, mein Herr! 世ヲ
評シテ因循家ト云フモ、世間ニ往々アリ。如キ
ナル也ヨリ、斯ノ如キヲ評カア等下ルヤ? コレ他
ニレバレノ言行動作、然ラシム可ナリ。Ja, ja
mein Herr! 同一ノ人間ニテ又對テ、評ツ度
ナル、斯ノ如キハ何ナカ。一身奉勤氷炭……
イヤ、歌謡ト云フバ、コソヤ、縁ガウ坐ル、
何、花見の内掛山ト来テ日ニヤ一巻へられ
ぬ、ぶらぐとして居れ、ヤ、歌謡ノ聲の
あたり、ソノく、あり。嗚呼、歌謡ナル武
歌ナル哉。一軍ノ食一瓢、飲トアルハ水カ
酒カハ知ラ子ドモ、兎ノ角、歌ヲト云フ字ニ縁
ノアル掛者。何デモ、蚊デモ、歌謡ガイヨ。
アノ子。昨日歌謡ヲウケテ花見ニ行タラ子。

スバラシ一別女嬭= 惚レラレタヨ。戰軍ヌツル
イチ一ヨ。ヘンツノ洒落モ古ヒ物ダ。

“伊東^君^殿ハドーモウ酒ヲ召レ上ルト口数ガ多ク
ウナリナサルニハ周ル”ト或ル僕ノ親友ガ僕
ニ忠告ヲシテ呉レマシタ。余ハ決シテコノ忠告ヲ
無下ニハセヌ。併シ余トテモ酒ノ為ニ口数
多クナル様ナ人間デハナシ。トヌツテ口数ヲヘラ
ストヌツ様ナ人間デハナシ。ト獨リ言フ云ツテ
居ル後カラ。余ヲ叩クモノハツ^ヲ醒ムレバ
コレナン南カンテ。……南柯^ノ一夢^トデモ何デモ
ナイ正直正當。アツク真者。本々本間ノ事ヤ。
何ヲ人ヲ馬鹿ニシテ居ラ一。

十一時家ニリヨリ^テ就テ判決三十五ツ

三月二十五日(火) 飲

七時迄中七時半登校一心不乱ニ字果
ヲ修ムコノ字課ト云フハ亦三回内園勸業
十時晩午へ出品スベキ回畫ヲ余ハ余ノ技
量ヲ示スコノ時ナリト思ヒ之ヲウマク書キタル
ガ實ハ非常ニ不支ナル点モ多キナリ同等生等
ハ「キリ余ノ畫ニ巧ナルヲ評是レ措カズ」
”伊東君、僕ニ一枚書ヒテ呉レ玉ヘ、何デモ
イカラ”ト云フ流ハ幾度ト無ク余カ耳柔ニ
達シタリ”伊東ハ實ニ自在画ニ巧ナルヲ云
フヲ評法ハ屢々余ノ耳ヲ聳ヒタリ。余ハ自慢スル
ニハ非ザレドモ評ハ或ハ多ク者レハヤモ知
レズト思ヘリ。余ハ七歳ノ時ヨリ人ノ顔ナド
ヲ画キ十三歳ノ頃ハ人ノ身体ノ鈞合ヲ画キ
得ル様ニナリタリ。余ハ画ヲ能クスルガ一得
ナル代リ又一失モアルナリ。亦一人ニ重宝ガ
ラシ面倒ナル評文ヲ只銀五分ニテ引キ受ク
ルコト往々アルナリ。又自外ニテモ画ニ耽
リテ幾分カ學ヲ好ムノ趣アリナリ。伊東
画ガ書ケルト書ケヌトヲ并ベテ何レヲ取ルヤ
ト云ハ先ヅ書ケルヲ云フベキナルガ斯レハ
キ些細ノ技術ハカシテ誇ルニ足ラザルモノナリ。

併し尋常ノ人コトハ画ガウマビト云フ一点丈ニ
多キ所アル故我分ガ世人ノ受ケガ義キナ
ン併シコトナ些細ノ事ハ魔モ余ノ心事ハ
影響ヲ及ボサズルナリ

五時半ヨリ定シテ兎シハオト受ト酒ヲ化ケ
ムケツ、アツ余モ忽チ仲間入りセリ。ヤガテ
兩人ハ晝竹ハ夜席間キニ行キタリ余ハ
心進ニサレバ 宿ヲ家ニ残リ事業ヲナサ
ント企テシカ 終日ノ勞働ハ心身大ニ疲レク
トト 睡リタリ、ナツノ代リ非常ニ多ク奇妙
絶倫ト云フ夢ヲ見タルガ一々書カレハ
クダクシツノ中ノ一ツハ余ガ旅行シテ
一ノ高山ヲ攀ガ登ルニ山間ニ小屋アツテ
旅人ヲ宿テシムルアツ。主人ハ八十ニ近キ
老母ヲ十六斗ナル孫娘一人トツオナ
ルベシ十四斗ツナル小唄トアリ家賃シキエハ
三人カ形ハイタクヤフレ果テ、見ルガモナレ
余ハコノ家ニ宿カレシガ食物ハ黒キ米ニ一種
ノ野菜ニ酒ヤアルト云フ、カレシヤク濁酒ヲ
出セリ小唄ハ余ニスナレテ河原ニ三足火ニ
アブリ娘ハ余ノ為ニ酌ヲ取リ老母ハ坐シテ余
ニ強ク試シタリ余ハ食ヲ終リテ寢ニ就クニ

同モナク佛堂ニテ人声スヨク聞ケバ老母ハ余ヲ殺シテ金ヲ奪ハレ云フニ女良ハシク泣キテ之ヲ諫ムノ様子ナリ余ハ肌ニツケタル短刀月山丸ヲ握ラツツイザト云ハバ走リキント心ガケタリ臆テ老母ハ余ノ寢所ニ入り来リ娘ハウロクヘテ老母ニツケ纏ヒタリ老母ハ女良ヲ叱リテ余ヲ刺サントスルニ余ハ早クモ身ヲカハレタルガ老母ノ及ハ部ヲ娘ノ脇腹ヲ深ク刺シタリ老母ハ驚キテ叫ビタル物音ニ山変レ川移リ谷塞グテ峯崩レテ山中ノ景色ハ忽然トシテ余ガ郷里トナリタリ彼ノ老母ト見シハ年古ル大犬ナリ女良ト見シハ生シテ一ヶ月斗リ経タル小犬ナリ老母ハ小犬ノ腹ヲ強クカミテ殺シタリ余ハ棒ヲ取テ老母ヲ追フニ犬ハ山ヲ越ヘ谷ヲ走リテ如何ニモマデモト逃グルヲ逃サシ追ヒシガ余ハ蹴キテ又ノ谷ノ中ニ陥リ粉々トシテ夢醒ソク鳴呼煩悩ノ老母ハツノ孫ヲ殺シタリ狂犬ヲ追フ不狂人走ルハ共ニ均シクシテ終ニ其身ヲ失フ慎ムベシ戒ムベシラレシテ自ラ警戒スニ第 判決二十点ナリ

三月二十六日 (水) 飲

今日ハ亦三回内園勸業博覧會開場ノ日ニ
テ主上ウ夫婦(御乳母)ノ内臨幸アリ満
開ハ嬰モカソソ本意ニ思ヒシヲ也。実ニ年ル
タツハ早キモノナリ。今カト思ヒシ博覧會モ已
ニ開ツ。マダカト待テハ博覧會モ已ニ開ケリ。然レ
余ハ專業ハマラドモマラドモ未タ成ラズ。一
年待テドモマダ成ラズ、二年待テドモマダ
成ラズト、唯ノ中ナル忠サシハ。待テ甲斐
アリテ父母ニ。喜バヌベキ時モアソカト指折
リテ待テ斗リナリ。五時迄キリヨ定夕食ノ後
兄ト共ニ上野ニ遊ビセリ。

三枝橋ニハ高サ六間ノ緑門ヲ作リ公園
ノ入口ニハ球燈燦燦トシテ輝キ博覧會
會場ニ至ル途中ニハ五箇ノ電燈燦燦トシ
テ白昼ノ如キモ群集ノ蟻ノ如キカガメノ影
ハ却テ闇夜ノ如シ櫻花ノ淡紅ハ電燈ノ藍
色ニ映シ紫ト化シ燈火ノ白キハ電燈ノ油
ニ其對比色ヲアラハレテ濃黄ト化セシニ一
奇觀ナリトテ余ハ兄ト共ニ綾子トテ風色ヲ
愛シ終リニ池ノ端ニ江ノ島料理ニ入
リタリ

余ハ大勢ノ整帽ヲツケタル故イハ、カ心安
カラズ帽ヲサクレテ登レリ久シブリニテ筍ヲ食
ヒテ舌ヲ鳴ラシ酒ヲ酌デ忍バズ池ノ
風景ヲ愛シタリ足ヲノ酒盛ハイワモマビノ
ル物ニテ餘リ興味ナキカハツ却テ真味アル
モノナラサレバ今日ノ夜汝モ人物ノ浮屠
コト酒ト人物トノ關係ハ尤モ有益ナク是
ハ自ら深ク酒ゆメニ失徳ヲ来タスヲ悔ヒ
テ汝ハ人間ノ品格ト威嚴ニ特レシ
折ル下女余等カ儂ニ大ナル尻ヲ落タ
ツケカ^レ酌^ルト出カタリ余等ハ一向ニ之
ヲ厭ミズシテ汝ヲウバケタル所女ハ神
リニ御レタル言ヲ汝^ノ教^ヲテ賣^ノ寄セタリ
余ハ汝ハ^{ヨク}饒^古ル女ナル哉^ト云ヒシ
ニ彼^ノ深^ク不興ニ入リサラバ止メ申サレト
テ引キ退キタリ。余ハ特別ニコノ家ノ醜婢
ガ御レトセシニ不興セリ躰ヲ八合ノ
酒ヲ尽シテ微醉ノ氣味トナリ同店ヲ出テ
切^ノ通^シヨリ人カニ乗ルコノ車夫大ニ酔ヒテ
勢^{ヨク}ヲ^初メ空車デハ引ケヌコトヲ告^グ
ソフヤキタルガ余等^ノ足^ヲテシキリニ乗リケルヨト
迫リケルナリ。十一時家ニリヨリ直ニ^家ニ^社

リ判決二十二点ナリ

近頃亭子集地回引ノニテ講義ナ
モカラ期々毎日に暮スル大ニ宜シ
ラズトハ思ハレ勢バウヲ得ザルモノモホ
ナキニ此ノ鳴ル手今ハ花ノ時節ナリ
ノ時節ハ宜シク花々レカルベシ花ハ三
日ト待タズ散ルモノナリ今夜一陣ノ
暴風アラバ日月日ハ又之ヲ眺ムルヲ得
ザルベシ古人燭ヲ取テ夜ヲ過フマコト
ナリ。余モ亦人間ト生シテ馬ノ花ヲ愛セザ
ランヤ。散リ果テ又尚ニ充テ眺ムルバ
何ラステカ心ニ歎クニヤ。況ニ今春陽
ノ候庭窓袂ヲ連ヌ。フノ嬋妍多氣
遠ク墨院ト東白トノ花ニ勝ルモノアリ。余
花ヲ眺ム。知ラス何レノ花ゾ?

嘉
永

三月二十七日(木) 飲

予亦七時起キ八時終後五時半恒
寤ト云フ余ハ是日ニ云ヒ如ク博覽會へ出
品スルニ圖画ヲ画キ辰ノ故斯ク毎日邊
マデ專授ニ在リテ飽息スルコトナガ実ニ余ハ
自ラ馬鹿ダ事ト思ヘリ余ハ圖画ヲ見テ
"成ル程上手ナリ、巧ナリ、精細ナリ、コノ画ハ
何程ノ辛苦ヲ要セシモナリ"ト推知スル人
ハ千人中一人アルヲ無シトナルベシ然ラバ余
ガ勞ハ全ク徒ラ事ニシテ世人ノ注意ニ止マ
ルコトヲ得ザルベシ。不羞コノ面倒ナル圖画ヲ
畫ル時ヲ他ノ必要ナル事物ノ費シタラズ
ニハ。

日暮ヨリ三雄我ト共ニ三合ノ酒ヲ酌シテ
寝テ居ル兩人ノ互ニ日記ニ從事セリ抑テ
コノ日記ハ余ノ専賣ルガ大ニ時間ヲ費ス
モノナリ中々尋常人ノ企テ及ボクニ非ス
余ハコノ日記ノ毎ニ平均一日十分間ヲ費
ス及ビハ十日ニシテ一時寫一ヶ月ニシテ三時
寫一年寫スハ三十六時間人生五十年間ニ
ハ百八十時寫即チ七日半ヲ費ス生利ナリ
マコトハ馬鹿ニシキコトヲ採テシハ余ハ

伊東の野郎

生ノ中七日、病氣にかつたアキラマテ
ヅン(ト日記ヲ認ムベシ)

十一時頃、兄、微醉、体ヲ折詰テ提テ
向島福岡樓ヨリ、足ハ今日平田ヘ行
キ、先日園先ヨリ到来シタル、此處落テ届テ、
此ノ十ヨリ、長シト置キ、モ、ウラ、コン
コンニヤリ、ウカンカビチ、又食フコトヲ得
ザルニ至リ、トカキ平田叔父ハ、コレヲ見て大ニ不
興セルベシ、コレヲ先キ園先ヨリ、巴ノ事
平田ヘ通知アリ、ト故平田ヘ今日ヤ今日
ヤト待テ、ケルニ一向、其沙汰ナケレバ、平田ヘ大
ニ怒リ、伊東ノ小供等ハ、何レモ横着者ヲ、因
ルト云ヒ、トツ成ル程、左モアツテ、左モ
アリ、ベシ、余ハ自ラ、ケルニ、カレ、横着ナリ、余
ハ必、迫、至、ザレバ、余ガ義務ヲ果スコトヲ
為サズ、余ハ、隨分、平田叔父、逆ヲヒタルコトア
リ、三度ヨリ、多ク、平田ニ、嚴シク、ロヒ、シ、レ、以後、一
切、構ハ、ズ、ト、定、ム、ル、或、シ、時、ノ、家、ニ、置、テ、
故、速、カ、立、テ、去、リ、ト、定、ム、ル、レ、シ、余ハ、隨分、
平田叔父ニ、迷惑ヲ、カケ、レ、ト、モ、アル、ナリ、併、シ、
余ハ、決、シ、テ、平田ニ、逆、テ、カ、意、ヲ、充、テ、分、ク、
尊、信、セ、リ、只、余ガ、心、亂、ル、時、斗、リ、ハ、彼、レ、

残酷無道人ナト思ヘリ而シテ實際ニモ多ク
彼ノ缺點ハ受レズトス

平田ハ余ヲ評シテ剛情我意至ラザルナク皮
ル御シ難キ人物ナト云ヘリトゾ多クツノ中
ニ覺ユ或人ハ温順篤行ニシテ君子ノ風アリ
ト云ヘリ或人ハ機敏英利ニシテ睇目鋭スベ
クラスト云ヘリ。或人ハ余ハナリ現象ニナリテ然レ
バト云ヘリ、或人ハ大專教授トナルベシト云ヘリ、
或人ハ事務官タルベシト云ヘリ、或人ハ世修
ニ関セズ義術ヲ修メテ器ヲ集ムベシト云ヘ
リトゾ余ハ目下何ニナルベキト考按中ナリ
トニ時夜ニ就テ判断三十点

三月二十八日(金) 飲

七時起キ直ク登校 同引ニ從事ス五
時家ニ归ル 同モク有る等 雜務ヲ三
二百部出来込 股所ニツ持ケ来ケ余ハ
オト共ニ支シ 配布方ニ尽カシテニ時ヲ
ヲ費シタリ 足立氏来リテ 見ト 囲碁ヲナセシカ
躰ヲ用ル 次テ山岡氏 松来務ス 茶果ヲ
供シテ 禮儀 教訓ニ及フ 八時半 同氏
归ル 十一時 酒五合ヲ命シツバラ 食
フ 見ト 中トハ 囲碁ヲ始メ 余ハ 天匠 後
躰ヲ草シク 十一時半 盡シテ 判決
三十点

三月二十九日(土) 飲

七時起き直ぐに登校ス今日ハ午前一
 時ヨリ伊豫屋打テ寄リテ表ハ四月三日
 ノ飛鳥山園知事ノ川原序ヲ室ニ集
 テルハ正午ヨリ家ニ廻リ室内ヲ掃除シテ客
 ヲ待ツニ芥川孝太郎、山崎欽死兩人
 来ル次テ中條猪一郎、小林保我ノ兩
 人亦来ル因テ色々ヲ議ニ見ル出席
 員ハ先ツ五十名位ナルベシノ豫算ナリ
 ナリ色々勘定シ見ルニ酒肴藥品及雜費
 ヲ交ヘテ殆ト六円ヲ要スルヲ以テ出入
 地價ハス余等ハ大ニ頭ヲ悩マシメテ幹
 事ハ斯ルハ時ヲモ失ノ操ソルモニテ周施
 ノ語ハ中々莫大ナルモノナリ余等マダハ周施
 ト云フコトハ夢ニモナレタルコトナク世ノ周施家ヲ
 目シテ一種ノ好事家トナシ第カニ笑ヒカレ
 モ今ハ我カ身上ニナリ又余等素来好事ニハ
 ナレバ饗宴ニ至テ又已ケテ得ゲルモノアルナリ
 併シ人間ハ一度ハ周施ヲ務メテ置カレ
 後身ノ路ハモリ又一種ノ欠レベカラザル義
 務トシテ儂アルモノナリ一生ノ中一度ハ務メテ
 ノ媒々人トナラ見ルコト云フ諺モ矢張り意ナシ

併し三日ハ好天気ハ受合ヒナリ 何ハハ昨日
日ヨリ今夕ニカケテ大雨益々化スルカセムヤ等
リツバキ壺内ニテ全ク退氣ヲ為シ其心地ヲサ
トト堪ヘ難クコレナリカレバ三日ハ好天ナルベキモ
繁日ノコレヲ先時ノ事ナリ来遊人雲霞如
クニテ田中モ完全ナル運動ハ出来マレトノ餘
算ナリ併し成ル可クハ有馬守ノ勢ウヲ萬人
ヲシ度キモナリ 運動會ノ相テ究異ニ謂
葉葉ヲ供ス 芥沢ト山崎ハ外山博士、
演説ニ向テ批評ヲ為シガ山崎ハ大ニ外
山ノ獲ヲ稱賛シタルモ芥沢ハコレニ反對セリ
コノ兩人各一見識アル男ニテ中々馬鹿ハナ
ラヌナリ 山崎ハ豪壯ノ氣アリテ豪氣揚々好テ
人ヲ侮テ人ヲ蔑視ス言談ノ間自ラ其卓然
ナル氣象ヲアラハセリ 芥沢ハ之ニ及ビ周密正
確ノ風アリ言談ノ間ニ諸人ノ歡心ヲ買ハ
キ一握ノ交際アリ大尊ニ生ズケアリテ未決出身
生ノ中ニテハ第一流ノ人物ト云ヒテモ蓋シハナ
キナリ。

曠者密遊者ス間ニナク田中苗先生入
来リテテテテテテテ田中ハ中山ト申ト云フ字
ニテ連続サルイテテテテテテテテテテテテテテテ

元来兩人の女は左ノ二ハナカレガ 兩人
互ニ親戚ナルト知レシヨリ 兩人ノ交情何レ深
キナリヌコノ事實ハ望ミナク見ル如ク 田中
ノ祖父ノ甥ハ即チ中山ノ父ニシテ 田中ノ父ハ
中山ノ父トハ從弟トナリテコノ事ハ 田中ノ家ニ
ス、ハタキヒ折佛壇ノ後ヨリサキ 觀音ノ像ヲ
見出セリ 然レニコノ觀音ノ像ハ 中山ノ家ニ秘藏スル
觀音ト一對ナルヨリ 色々詮議ヲ逐ゲタレ 所豈
同ランナスル奇縁ナリナリナホコニ 乾テ面
白キ物ヲ告アルベシト、書キ立ツルハ余ノ想
像ニテ 實ハ皆ノウツナリト知レ玉ヘ
田中ハ中山ノ女ヲ開講ナラズシテ 沈晨ノ分チ
ヲ案ヨリ 然レニ興ニ入レハ 大ニ欣悦ヲ比シ 男ナリ
十六七ノ頃ハ 動スレハ 激怒スルノ癖アリ 何トナ
局 踏躰ノ氣味アリカ 近トテハ 豹姿ニテ 公明
寛大ナル君子トナリ 博學多聞ノ秀オトナリタルコト
本性ノ然ラレニ 所トハ云ヒケラ 周回ノ間
係ニヨリ 斯ク改良ケレニ 疑ニシ被レハ一
身ヲ犠牲ニシテ 學ヲ研究ナレト云ヒ居レリ
然レハ 進取ノ底理屈ヲ 排斥ニ有テ 實理
論ヲ好ム 當世ニ通中ニシテ 真正ノ學者トシ 尊
敬スベキ人物ナリ

九時幸田中町ル余等三人ハ吏ロウ牛
肉店へ登リテ飲食セリ此後ハ種々アツ
ルガ如クハ余等ノ内職談シテ余ハ余ノ
才藝ヲ賣ルコト若後數回才藝ヲ買ハレ
コト亦十數回アツ余ノ教授受ケル人ハ
岡村新次、北村亨吉、八田源三、板井恒我、
新保文作、横川清人、内供昇陽、宮島幹助、
瀧川龜策、長谷部保太郎、山田真治、佐
藤官五郎、山田守弘、伊下作松、等ニテ其
他東洋學院ノ生徒等アツ余ハ人々教授スルコトヲ
好ミ從テ教授ノ法ニモトニ熟シタリ其他術ヲ
買ハレコト數回アツ

今夜ハ三人互ニ意見ヲ述ベテリガ才ハ常ニ極
端ニ強ク吐ク癖アツテラ成ニ大人ニカラス三人中
才ト兄ハ兩極ニ達シ余ハ中間ニ位スルコトアツ余
ト才トカ極ニ達シテ兄ガ中間ニ位スルコトアツ然
レモ余ト兄トカ極ニ達シテ才ガ中間ニ位スルコト
絶ラナシ言行動作悉ク之ニ準ズルニ奇ナク
ツバニ十ニ時帰宅極ニ就テ判決ニ三
五點

14.12

三月三十日 (日) 飲

二三日東、霖雨モヨヨ一全治ニタリト見ヘテ今日ハ朝カ、陽差テ陽氣勅メテ宇宙ニ充タリ余ハ上野、飛鳥山、向島、何モヘガテ数寄シテ午後、宿舎ヲ散セテ思ハグルニ非ザレト如何セン博覧會、出品未ク出来セズ是非ナクセ時家ヲ發シテ先ツ白石度次郎ヲ誘ヒ引キクヘテ学校ニ赴キ回引ニ從事ス正午數ニ明バ山田守五來リシヨ余ハ物理學ノ講義ヲ乞ハシメテ及余ハ氣味ナク思ヘレバウ得ス辞謝セテ及ヒ登校五時半帰宅ニ大息ヲキテ休息ス膳ヲ夕食、後足立氏入り來ル即チ火鉢ヲ焚キテ陣ヲシテ雜談スコト、ホートルース及匠師卒業ヲ試験、物理ナク足立氏ハ本年ノ卒業試験ヲ受ル身ナハハ解體心排氣ニ様子ヲ、膳ヲ田中、中山、兩博士入り來ル忽チブツト臭ハハ兩客ヲ帯ビシ酒氣ナク外ハ王ハ兩客ハ令ボートヲリヨリ匠中例ノ豊國屋ニテ日本酒四合ナマ四人前五分ニ人前ニ飯ニ人前ト云フ勘定ヲ済マセラルベシ中山ハ乾ク一奇談アリ四五日以來中山ハ氣味ト田中ト三人連レテ老川町、岡野屋ト云フ菓子屋ニ赴キ田中ハ七錢ノ餅菓子ヲ命ケタリ

中山の家^家 = 下^下ゲタル札^札見^見 = 姓名ノ所^所ヲケヅク
書^書 + 改^改タノリ 中山ハヨセバ^宜宜^宜イ^イ = 家^家ノ女房^{女房} = 向^向ヒテ
イヤ^ママ^マニ^ママ^マヲ^マコ^コテ^テ家^家 = ツハ代^代ガ替^替タル^ル根^根子^子ノ
ルガ^ル女^女何^何ル^ルコト^コヲ^ト出^出カ^カン^ンタ^タ女房^{女房}ハ三十^十号^号後^後
ノ年^年増^増盛^盛リ^リ = ツドコ^コナ^ナラ^ラ = 残^残ル^ル昔^昔ノ色^色音^音中^中々^々 = ヌカ^カレ
キガ^キ一^一ナ^ナ微笑^{微笑}シ^シテ^テヨ^ヨー^ーマ^マ一^一ノ^ノ辱^辱ヲ^ヲ下^下ラ^ラズ^ズシ^シテ^テ三
ヶ^ヶ月^月程^程前^前 = 霜^霜ガ^ガ風^風邪^邪疾^疾ク^ク卧^卧セ^セテ^テマ^マシ^シテ^テウ^ウ道^道々
重^重リ^リ先^先月^月ノ^ノト^ト云^云ヒ^ヒア^アケ^ケレ^レ声^声ヲ^ヲク^クモ^モラ^ラセ^セ半^半バ^バ頃^頃 = コノ
命^命年^年四^四ツ^ツハ^ハ子^子ヲ^ヲ残^残シ^シテ^テ没^没ツ^ツマ^マレ^レタ^タガ^ガト^ト云^云ヒ^ヒテ^テ傍^傍
 = 居^居ル^ル幼^幼児^児ヲ^ヲ抱^抱キ^キヨ^ヨセ^セソ^ソノ^ノ跡^跡ハ^ハ廻^廻ラ^ラヌ^ヌ女^女子^子ノ^ノ身^身一^一ツ
 = ツツ^ツレ^レハ^ハソ^ソレ^レハ^ハ難^難義^義シ^シテ^テ居^居リ^リ升^升テ^テ名^名ガ^ガコ^コノ^ノ児^児
ノ^ノ名^名デ^デ内^内ガ^ガ升^升テ^テゴ^ゴノ^ノ後^後モ^モ内^内ノ^ノ鹿^鹿夏^夏 = ナ^ナス^スツ^ツア^ア下^下サ
リ^リマ^マレ^レト^ト口^口説^説カ^カレ^レテ^テ中山^{中山}ハ^ハ一^一ノ^ノ句^句ガ^ガ出^出ズ^ズモ^モケ^ケレ^レテ^テ居^居ル^ル
ノ^ノ色^色マ^マガ^ガ変^変ヘ^ヘタ^タス^ス事^事小^小僧^僧ハ^ハ十^十銭^銭ノ^ノ餅^餅菓子^{菓子}ヲ^ヲ包^包モ^モ
ト^トス^スル^ル女^女房^房ハ^ハソ^ソノ^ノ鹿^鹿子^子ヲ^ヲ一^一ツ^ツ内^内マ^マケ^ケ申^申シ^シテ^テト^ト云^云フ^フ =
中山^{中山}ハ^ハイ^イヤ^ヤシ^シレ^レテ^テハ^ハ却^却テ^テ……ト^トマ^マシ^シン^ンデ^デヌ^ヌツ^ツナ^ナテ^テ
田^田中^中ト^ト只^只ハ^ハ嘔^嘔ト^ト笑^笑フ^フタ^タス^ス事^事女^女房^房ハ^ハ無^無理^理ニ^ニ一^一ツ^ツマ^マ
テ^テ渡^渡レ^レタル^ルガ^ガ中山^{中山}ハ^ハ何^何ト^トモ^モ形^形容^容ナ^ナリ^リ難^難ク^ク顔^顔色^色ニ^ニ餘^餘程^程
面^面ク^クラ^ラツ^ツク^ク癖^癖ノ^ノ店^店ヲ^ヲ出^出テ^テニ^ニ三^三歩^歩行^行ク^クト^トリ^リド^ドー^ーダ^ダ巴^巴レ^レ
一^一言^言デ^デ菓子^{菓子}ヲ^ヲ一^一ツ^ツ得^得レ^レタ^タロー^{ロー}ト^ト威^威張^張ツ^ツタル^ル由^由近^近頃^頃
抱^抱腹^腹ノ^ノ一^一奇^奇怪^怪ナ^ナリ^リ田^田中^中ガ^ガ眼^眼鏡^鏡ヲ^ヲ落^落ス^ス程^程笑^笑
ヒ^ヒテ^テ物^物ヲ^ヲ音^音ヲ^ヲ

余の日記ヲ和シ互ニ興シ笑ヒ居タル所ハ例ノ
江原先生入り来リリ聞ケバ徳シ今朝ヨリ所々々
トカケズリ廻リテ微返ヲ極タル由今マデ魚
長ク三人ノ藝妓ヲ相手ニ大立キ廻リラナシタ
トテ脱キ出タル詭譎ノ口調イフモ乍ラ人
ヲシテ抱腹セシムル取レリ江原ハ余ハ
上ニ歯ミガキアルヲ見テ近頃ハ酒ヲ慎シム
ト見ヘル子ト云ヒタコロハ歯ミガキ揚枝ヲ儉
約シテ酒ヲ飲ムト云フ金言ヲ活用シタルモハ知
ルベシ一庭ハ江原ヲリコト持テ切リノ体
ナリ是レハ最前ヨリ江原ノ一挙一動ハ注目
シ居リシガサレ呆レカヘラタムガ女ハ言佳人
モ始メテ江原ヲ見ツノ言語ヲ聞カバ必ず呆
レ驚クナルベシト信ス足立ハ余ガ日記ヲ見テ
又サレ驚キタル体ナリトヤコレハ迂闊ニハ
饑食ラナイコト精シク書キ立テラシメタマラナイ
ヤト叫ビレテ知ルベシ江原カ小便ニ立ケル
ヒマニ足立ハ余ニ向ヒテアノ人ハ餘程愉快
ナリト陸軍ニ奉職スル人ナリト向ヘリ江原ハ
性根ハニテ三度違フアモ決シテ知レ難キ
ナリトアノ忘レテ江原ハ余ニ鬚ヲ剃去セヨ
ナリ何故ナルヲ知ラス

江原ノ新レヨレハ 耶阿勉余ハ今日向湯
ヘ行ト居レコレ二月五ノ葦ノ帽子ハヨケレ
一月五ノ葦ノ洋服ハ外ト恐レルオマケニ華化ガ
七十ノ末ノクヲタマナシ。黒ノ紋付羽織ト云
ト善ヒ撮ダガ足袋ハ鼠色デシカモ親指ノ
先キガ不破レ居ルニハ恐レル次才下駄ト云
フト煎餅モ三舎ヲ避ケルト云フ名斗リ裏付
キ駒下駄デハ些ト驚カラ子ト江原ニ
エヒヌ。魁ヲ江原足立氏ハヨレ余ハ江原
トテ始メテ末江原ノ(我)田ノ洗法ト組打
ヲ始メテ終ニ一音ノ古侍ヲヒツリ出セリ十時ヨ
リ余ハ彼ト共ニ警備ニ出ルケ切通シ江
知ル勝ニテ飲ム江原ハ智ニ流學上尤
モ有益ナル物流セリ又彼カ幼カノ折
ノ經驗ヲ物流ルルガ即チ彼レガ奇オト
敢勇トハ実ニ沛公ト樊榭トニ勝ルカヨ
終ニ肝門ノ怪ヲ全フレテ飯糰ニ一泡カ
セリレリ今日彼ハ黒面ノ粹士ト昔日ハ紅
顔ノ美ガ年タリコロ面白ケレ余ハ沛公ノ德
ナク頃羽ノ勇ナキニヤ未ダ鴻門ノ會ニ臨
ミレトナケレバ其危險ト興味トラ知ラズ
范增カ遠謀モ知ルニ由ナケレバ樊榭ノ勇

モ知ラザルナリ (ホントーカヘ?)

江知勝ヲ云リ余等ハ本郷春木町及
通りヲ控控ニ表川河ノ全部ヲ横行シ
非常ナル奇行ヲナセリ先フ江知勝ヲ *knif*
ヲ *benachtigen* シ春木町ニテハ吾後十
枚ノ着板ヲ引キハズレテ速ク他處ニ投テ
甚シキ之ヲ井中ニ投じテ又街燈ヲ奪
ヒ門ヲ刺シ割レタルモ、吾後數十ニ下
通りヨリ表川河真砂町也ニテモ同レコ
法ヲ用キテ音子ノ着板ヲ外ニシテ嗚呼ス
柳ニ何ノ悪戯ゾ正コシ。

*Ist bin, hol mich der fünfmal,
reiß für den Tollfaß.*

ドーナコノ文章ガワカルカコシガ充分ニセカ
レバ吾ニ法卒業ノ受状ヲヤルベシ余ハ
其所カノ名文ヲ知ルナトエリ若クロー。
余ハ一休、杳ナシキ人、静カ人、ダマツ人
スナオ人、虫モ殺サズ、語ラカヘテ云ヘバ
馬鹿正直律義専門因循博士ト見ユル男
ナリトゾ (トゾニ字ハ不承知ナリ) 然レニ今
カニ行ヲナスハ如何。酒場ニ精非乱シカ
? 吾等ハ江知勝ノニ合、酒ニ面テモ

ナラス。余ハ何トナリ断カレ大事ヲ好ムナリ。
本郷区ノ大荒^シト云フ見出レ^ル新聞^ハ出
レバヨイガト、ト江原ト云ヒ合ヒシ^テ見テ知
ルベシ

今夜、Parfanning = 余ハ大ニ疲レタリ或
レハヤリ損^シテ流石ニ狼狽^トシテ^モシ^テモ^モキ^キアリシ
ツノ筈ナリ^ト思^フ捕^ヘラレテ^ハ吟^ク味^サル^レ段^ニ
サレテ困^ラザル^テ得^ズ江原ノ勇ハ能ク五人
系者ヲ凌^ベシ^テ岳^ニ照^タル^レ国^法ニハ
敵^ニ難^シ。全体断^カレ^ル事^ハ餘^リコト^ナラズ。
出来^ルコトナリ^ト先^ニ見^テ合^セテ^ハ幾^ト度^モナラス
ナ

一時家^ニ引^レバ^見ル^レ何^トカ^ノ物^ヲ持^テシ^テ
タカ^ニ江原ノ^夜來^リテ^ハ繁^シニ^ツ、^臥床^ヲ
設^ケ置^カレ^テ用^意深^ク切^リナ^リト云^フベシ^ト判^断
二十八点ナリ

三月三十一日 (月)

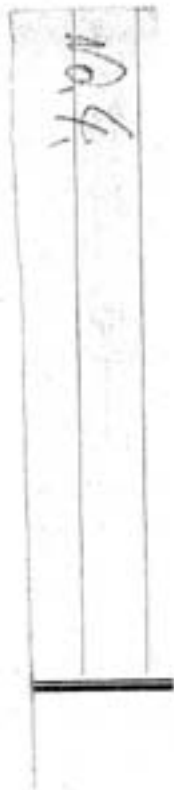
近頃、天気程腹、立ッモノハナレ昨日ヤツ
晴レ外思ヘバ今日又ゾロ大雨トナリ又難
キハ秋、空トハ誰カズヒ余ハ空ノ難キハ春、
空ト大呼セシ答スルヲ。江原ハ五時半
目ヲ覚マシタルガ雨、カシ、驚キル体ナリ彼
ハ足駄モ奪モナレ俛テ跣足デトテ出テ
行キヒガ足ノ裏痛ク行キ難シテ再ヒ
立ケ座リ、兄ノ足駄ヲカフ穿ケヨレシ彼ハ
今家ヲ借リ一婢ト二人暮シナル由婢ガ
彼ノ性情ヲ計リ童子ヲヒカスラ驚キ及ル
トハ尤モ吾抱ナリ七時余ハ起キ直キ登
校セリ、教授ニテ余ハ同子生ニ向ヒ戯ケル
ヲ、余ハ昨夜実ニ馬鹿ナ夢ヲ見タル口惜コト
ト云フニ山下ト云フ男ノツレハ遺精ダニト
云ヒシカ尙ハ落ケズシテ語ルニ落ル彼ハ一
箇、遺精家ナリト知ラレタリ河合ト云フ男ハ
尙シ夢ダニ早ク云ヒ玉ヘ大方別嬪ノ夢ダニト
ト云フハ一箇、好色家ナリト知ラレタリ余
ハ何心ナク戯言ヲ吐キニニ人ノツレニ乗ラバ
レハ本性ヲ打テ明ケタルハ笑止ナリト云ヒ
ナガサ新屋ニモナキナリ

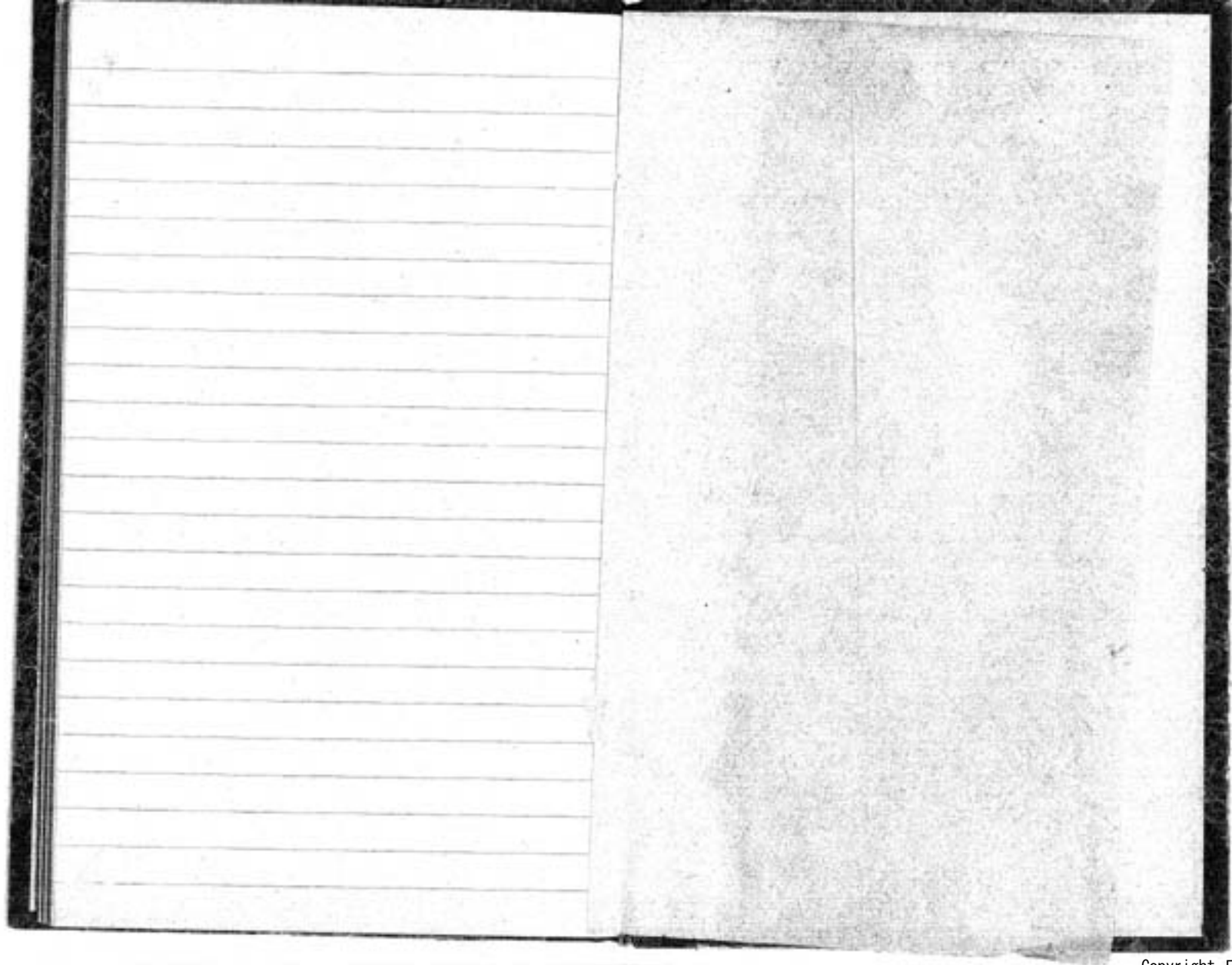
余、今日博覧會へ出品スベキ回画ヲ了セリ
ヲ精進大ニ爽快トナリシ筈ノ所カ、カガトシ
大ニ弱リタリ何トナレバ今マデ意氣込ニ息ニ
失セタル回画ノ傍カ増價ニ引テ立ッザル由
由ルヲリステナリ三時家ニリテ室内ヲ整
頓ス四時内持来ル飛鳥山ノ先ニニ時
ヲ擧セカ五時半ヨリ六時ヨリ足立
氏微醉ノ体ニテ入り来リシテ言先ニカケ
タルガ彼ハ「君厚顔ハハ僕ノ性後ヲ
伏藏ナリ記載シテサレヨ余ハコレ由ラテ
自ラ若ルヲフツト流石立派ニ申サレタ
ルガ」僕ハ好色家デハナイト云ヒハ所
謂同フニ庶ヤズシテ吾ニ藤ツル一箇ノ
好色家ト知ラレリ。然リ足立氏ハ一
好色家ナリ彼ハ諫一郎諫一字ヲ
守ト自ラ諷ケ然レモ真諫ガ出来ル程
ナレバ諫一郎ハ名実ヲヌナリ。子一君
見玉ハ田中英雄ト云フ男ハ英雄デハナイ
コトヲ。伊東忠左ト云フ男ハ忠デハナイコトヲ。
コレハシタリ失致ケ万ナ。然レ田中苗ハ苗ノ
如ク生長シ中山表ハ表ノ如ク繁ク大内忍
ハ牛ノ如ク美味ナリ足立ハ丈シ何レ屬ス

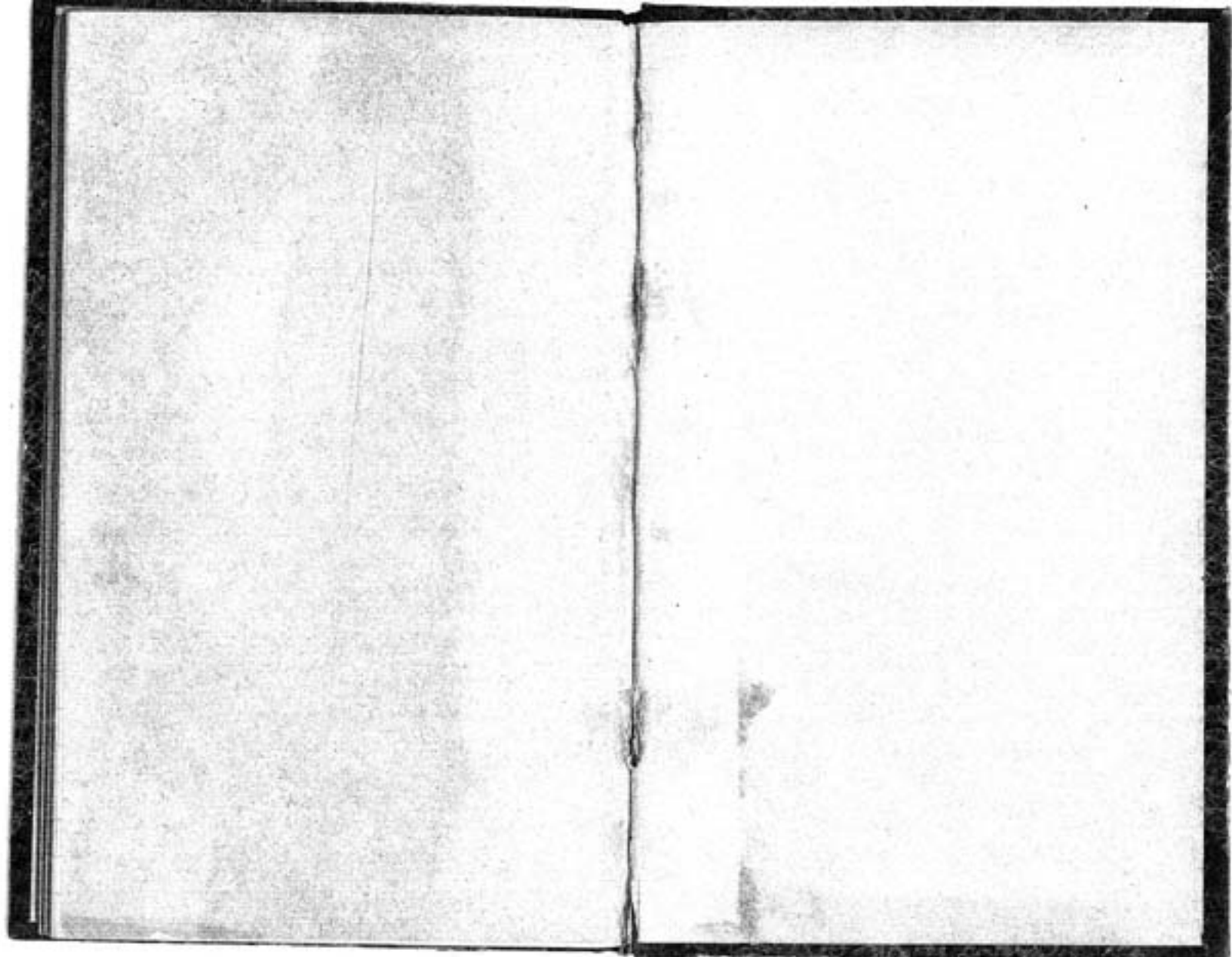
ルヤ? 謙... 遜... ハクシヨ 謙遜が出来
ル位ナラ 支レツ...。世俗、謙遜ハ卑屈
因循 踟躇 蹙迫ヘ一ハイ コクハク。
真正、謙遜ハ 剛毅、溫柔、植井、着実、何
トカ 床ユカシ 所ナカルベカラズ。強ルヲ
矢 奥者、謙ノ字ヲ 濫用ニシテハ 天下何事
ノ 混雜ヲ 生スベキ。足立ハ 菓子ヲ 余
等ニ 馳走セリ 又ト例、将裝ヲ 固ク 足立
大ニ 敗走セリ。ハハ 足立カ 弱クシテ 足立強
キニ 非ズ 只 兩人 相互、リノ 時ニ 於テハ
心情、如何ニ コル 実カハ 足立ノ 方大
リト 見ユルナリ 余ハ 今日 積口、府場ヲ
主 樂ニ 睡気室ニ 満テ 余ヲ 諷フコト
甚ク 余ヲ 嗤シ 辰カ マスナリ 時
半夜ニ 訖テ 判決ニ 十二点ナリ。

1	/	29	飲
2	飲	29	飲
3	飲	25	飲
4	飲	26	飲
5	飲	29	飲
6	飲	28	飲
7	/	29	飲
8	/	30	飲
9	/	31	/
10	飲		
11	/		
12	飲		
13	/		
14	飲		
15	飲		
16	飲		
17	飲		
18	/		
19	/		
20	飲		
21	飲		
22	飲		

力
而
類
致
指
可







明治二十三年

自三月一日

至三月三十一日

第四

4

4
M.23.3.01
~ 3.30

④

M.23.3.01
~ 3.30

フキよのたび